愛國婦人

●定價一部金三錢五厘●半年分金四十二錢●一年分金八十四錢●廣告料一行金六十錢●發行所東京麴町區牛ヶ淵公園內愛國婦人發行所●發行兼印刷人山澤俊夫●編輯者永持德一

明治四十二年四月五日發行

April 5th. 1909.

創刊明治卅五年三月廿七日●明治卅五年三月廿七日第三種郵便物認可●毎月二回(五日廿日)發行●電話番町千七百四十五番●同五百廿番●遞送無料●振替貯金口座一三六二番

社說

愛國婦人會總會

年々歳々人は變れど、咲く花に渝りなきが如く、愛國婦人會は、例に依りて、本月五日を以て、日比谷公園に、その第八回の總會を開かんとす。二十七八年戰役は、十四五年の昔、三十七八年戰役も、四五年前のことゝなりし今日、世人は、戰爭の「せ」の字も忘れ、如何にして、今日の盛なる日本が、現はれ來りしやも、忘れたるが如き今日、愛國婦人會が、沈默の中に、軍人遺族及び癈兵の救護に、年一日の如く、熱心忠實に盡力しつゝあることは、國民一般の大に感謝する所なるべし。

戰爭は、忌むべきことなり、出來得る限りは、これを避けざるべからず。然れども、國家の獨立を危うし、その發達を阻害するが如き、武力の、我れを脅かすが如きことあらば、萬止むを得ざる事として、戰爭もまた辭すべきにあらず。この時に於て、進んで、其衝に當り、砲丸劍戟の下に、僵れて後止まんの意氣と忠勇とは、我が國祖先以來繼承し來れる國民の精神にして、毫も憂慮するの要なきが如きも、然れども國民の同情と後援とが、益々其精神を鼓舞激勵するに力あるや、疑ふべからず。又人の一身に取りては、死よりも大なるものはあらず。而して、我が同胞をして、その最も難き死を敢てせしめ、その結果國家の隆盛を見るに及びながら、その遺族又は癈兵に對して、民間が何等の善後策を講せず、早くも忘れたるが如くならば、そは、遺族癈兵のため、はた國家將來のため、決して喜ぶべきことにあらず。愛國婦人會が、天下泰平の時にありて、なほ戰役の當時を忘れず、その遺族癈兵に盡すの意志と行動とは、誠に感賞に値するものといふべし。

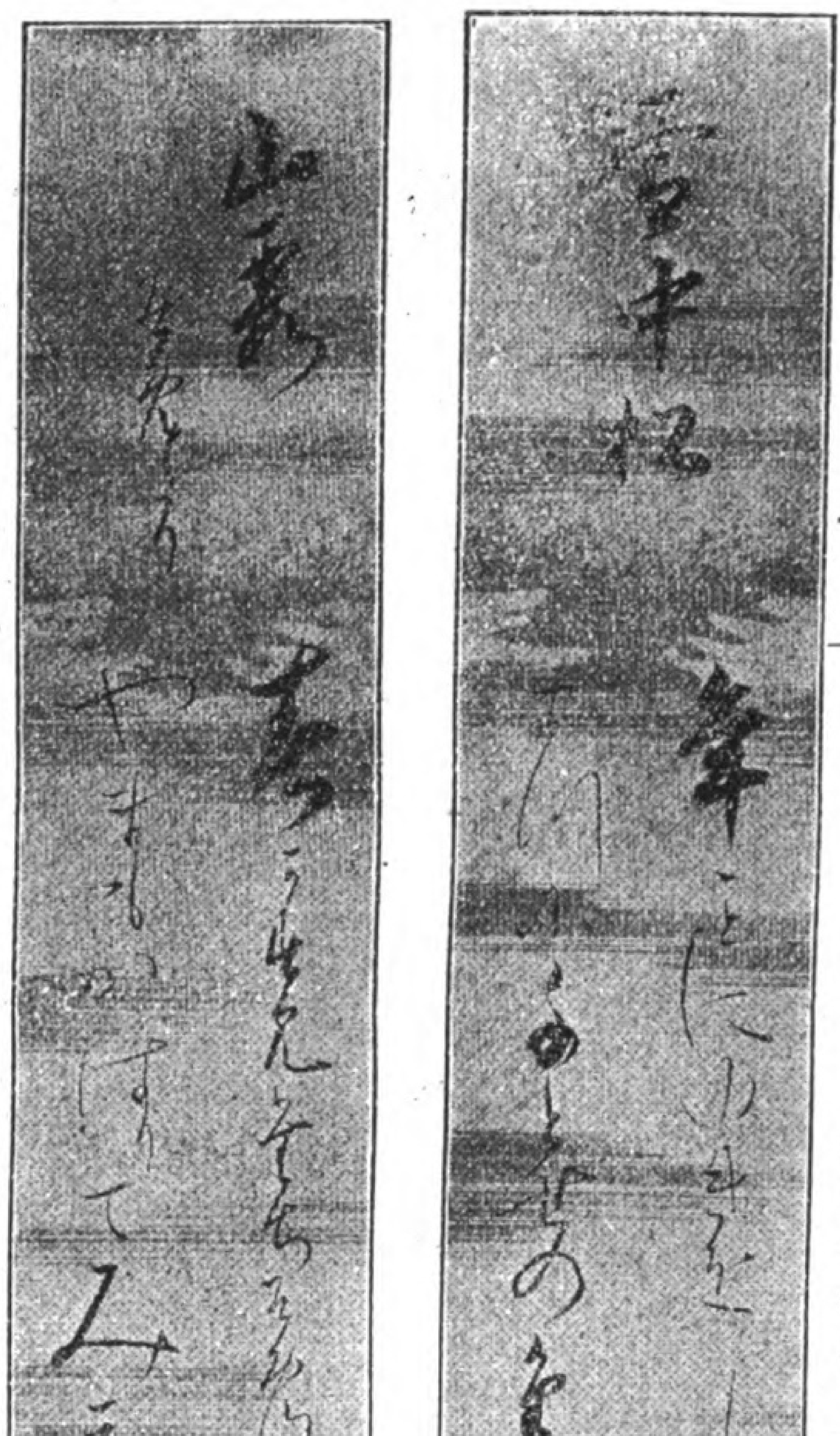
然れども、そは過去の事なり。人は、唯過去のみを誇るに至て、老ゆるものなり。人としての生命は盡きたるものなり。會に於ても、また然り。愛國婦人會は、今日たゞ過去の手柄を褒めて居るべき時にあらず。遺族癈兵の存ずる限りは、何處までも、これが救護慰安に努めざるべからず。況んや今日その遺族が百、千の小數にあらずして、數十萬の多數なるをや。會の仕事は、是よりといふも過言にあらざるなり。

會は、また戰死者遺子の教育にも、任ずることゝなり、現にこれを收容すべき一大寄宿舍は、本會の側に建築せられたり。こは會の新事業にして、戰死者の志を繼がしめ、その靈を慰むる、最良の方法といふべく、隨て遺族救護の事は勿論、此方面に於ても、今後大に會員の盡力に待つべきもの多かるべし。

此時に當り、愛國婦人會第八回の總會は開かれんとす。我等は、この總會が、一層多くの同志者を、全國婦人の間に得るの動機となり、又會將來の事業に就て、更に大に計畫し大に實行するの踏み出しとならんことを望むものなり。

當代名家選

岩倉公爵夫人



女學生の服裝（上）

愛國婦人會評議員　下田歌子

歌子刀自經營の下にある實踐女學校生徒の服裝が、他の女學校には見ることの出來ない風變りであることは、皆さん方のよく御承知のところです。これが制定に就ては十分な御意見もあられませうし、又實施に就て多少の苦心もなさいましたことであらうと、一夕記者はこれらを伺ふべく訪問れました刀自の御話はすなはちこれ、（相良生）

女學校の服裝に就ては從來絶えず議論もありますし、研究もされましたが、今に尙未決の問題として殘つてゐるのです。獨り我校に於ては御承知の通り既に校服を一定して現在實施してゐますが、これに就ては多少の理由があるのです。

一體服裝など申すことは、社會の進歩が或る程度、例令ば弊衣を着ても精神的の修養さへ十分ならば更に憂ふるところはないとか、外部の裝飾に憂身を窶すの愚を悟つて、專心向上の道に就くとかいふやうになりましたならば、素より是が改良とか、研究とか申す必要もありますまいし、又、西洋諸國に於ての如く、個人思想の發達によりて、各自の位置や境遇を自覺し、それ相應の服裝に安ずるといふやうな程度に達しましたならば、又同じく服裝に就てさまで考慮する必要もありますまいが、然し、現今我國の狀態をみますとやはりこんな事にまで、心を勞さねばなりませぬ。乃ち凡てが過渡時代で、秩序たゝず、思想も亦千種萬樣所謂渾沌たる有樣、かゝる時代の通弊として我儘勝手なことになりやすいのです。風も定まらず、俗も整はずして身の分も忘れ、產の程も察せずに、やたらに新を衒ひ奢を極むるといふ有樣になりまして、着實堅固な美風は段々衰へてまゐります。されば又、かゝる時代のかなしさには、かくも不自然なる驕奢の俗をなしても社會的制裁は極めて弱く、時には却つて斯る弊風をして眞に社會進步の現象なるかのやうに謳歌する輩さへも見るに至る有樣にて、滔々として奢侈の風になづむの狀態でありますから、畏い事ではありますけれども、彼の戊申詔勅をも下したまひしものと見奉ることが出來得るかとも思ひます。要するに現今我國の風潮は、決して喜ぶべき傾向とは申し難いので、特に驕奢の風習はよほど注意せねばならぬことゝ思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論議

世の進歩に伴へる勤儉の意義

伯爵　大隈重信

▲我國獨特の現象

戊申の詔勅が發せられてから以來、世間では大層勤儉と云ふことに重きを置くやうになつた。これは、いかさま左樣あるべきことであつて、我が國以外の諸國に於ては、鳥渡、あり得べからざる現象だと思ふのである。

が、世には亦た勤儉と云ふことを誤解して居るものも、多數に在るようであるから、少し此勤儉と云ふことに就いて、辯じて見やう。

▲勤儉の眞意義

水野越前守とか、白川樂翁とか云ふ人々が、儉約と云ふ嚴令を布いた如く、[illegible]を食へとか、茅屋に住へとか云ふやうなことばかりが、必ずしも勤儉と云ふのではない。勤儉の二字を解いて見れば、勤は活動を意味し、活動の結果は儉を守れと云ふことである。

云ひかへれば、一方では勤の一字に勵まされて、出來得るだけ働いて良い結果を得るやうにし、さて、その一度得た良い結果をば、空しからしめぬように儉約を守る、これが、勤儉の本意だと思ふ。

▲國富が第一の基礎

今日は經濟本位を平和の國是として居るのである。されば、外交も軍事も、總て國家の富力增進の爲めに從とならねばならぬ。戰爭の時には假令軍事外交が、何事にも先んじて必要であるとは云ひながら、軍事や外交も國富と云ふ基礎の下に活躍せなければ、敵國を威服せしめるに困難であるのは歷史に依つても明かなことである。

▲時代に伴へる勤儉の意義

同じく勤儉と云ふ言葉であるが、この同じ勤儉と云ふ言葉の意味も、世の文明に伴ひ、自と變化して來る。されば今日に於ける勤儉なる言葉の意味は、昔と較べて進歩發達して居る。かく進歩發達して居るものをば、往古の意味に退却せしむる必要は勿論ない。

勤儉は重んじなければならぬ。が、世の進歩に伴へる程度に於て、勤儉を重んぜなければならぬと思ふ。世界の生活狀態は、文明の進歩に伴れて漸次向上して行くのである。されば二十世紀に於ける勤儉の意味は以前に用ゐられたのと、餘程違つて來ねばならぬと思ふ。即ち二十世紀の文明世界に生活して居るものは、一方に於て文明流の生活を爲して居ると同時に、大いに生產を發達せしめ、而して餘財を蓄積せなければならぬのであると思ふ。

若しも、二十世紀の今の世に、一方生產を發達せしめねばならぬと云ふことを忘れて、文明を向上せしむるに必要な生活的慾望を止めることのみが、勤儉の本旨であると云ふものあらば、これは、文明を自殺せしめ、國家の進運を阻害せしむるものと云はねばならぬ。

▲恐るべき誤解

斯う云ふと大層進歩すぎた議論だと云ふ人があるかも知れぬ。が、云ふも古めかしいが、チヨン髷が散髮に變り、島田が束髮と變じ、上下が燕尾服に變じた今日、チヨン髷の時代に於ける勤儉の意義を二十世紀の今日に稱へたならば、これも時代不相應であるとの非難は到底遁かるゝことは出來ぬ。これには誰れしも異論は無からう。

吳々も、勤儉と云ふことの大切なることは云ふまでもない。が、世の文明の流れが日一日と變化して行く今日、總ての事に對し、人間の頭腦ばかりを獨り退歩せしめて宜いと云ふ理由はない。されば、世の向上進歩と云ふことを念頭に置かぬ勤儉主義は、飽までも誤れるものと云はねばならぬ。勤儉、それは至極よろしい。併し誤れる勤儉主義は、至極結構でない。のみならず。屢々、世の文明を阻害する。これは至極恐しい。萬望、一方、充分勤儉に努めると共に、勤儉の眞意義を、世人に誤解せしめたくないものである。

我が國の婦人に望む箇條（下）

文學博士　遠藤隆吉

今日の婦人交際の多くは單に交際のために交際するのが多いやうである。他人が交際に出るからと云ふて自分も他の人に負けないやうに出るのが多いやうである。其では殆ど何等の目的もない極めて淺薄なる者である、斯の如き淺薄なる一時的の快樂を貪らんがために絕大の事業たる子供の教育を忘るゝやうな事があつたならば、誠に慨はしい次第である。

次に、元來婦人は結婚す可き者であるか、又、す可からざる者であるか等と云ふ問題は、素よりこれは各人の自由意志に基く者である。けれども一體から云へば結婚せんのは婦人に取て非常の不得策である。先づ婦人が結婚せずに濟む者は殆どあるまい。三十の坂を越へて、まだ結婚した事のない者が非常に結婚を希望して居ると云ふ話は屢々耳にする所である。男子にせよ夫婦の道と云ふ事は是非とも之は守らねばならん事である。結婚をせないと云ふことは婦人に取ては殆ど堪ゆ可からざる事であらうと思ふ。素より之は各人の自由意志による事であるから、斷じて結婚せんと云へば其までの話である。又結婚して後男子が一家を支ふるか、或は婦人が支ふるか、之は夫婦の間の關係如何にある者であるが、大概の家では男子が一家を支ふるに相違ない。で、男子が支ふるとすれば是非とも夫の從事して居る事業を助けるやうにせんければならない。夫の事業を助けて夫をして偉大なる成功を得せしめるやうにするのが、それが婦人の唯一とは云はれないかも知れないけれども、一の重要なる目的とならなければならん。で、此重要なる目的を達したか、何うかを考へて後に交際場裡に出る事を決す可き問題であらうと思ふ。徒に世間に於ける婦人活動の盛なるを見て、此潮流の中に何等の目的もなく、又何等の覺悟もなしに捲き込まれると云ふ事は、決して志ある者のなす可き事ではあるまいと思ふ。で、あるから自分は現代の婦人に對しては、此偉大なる目的たる兒童の教育即ち家庭教育の忽諸に伏す可からざる事を切望する。合せて此會の盛なると同時に、其盛なる事が必ず家庭教育を犧牲にせん範圍内に於て行はれん事を希望するのである。

（をはり）

牛乳で小兒を哺育する場合

牛乳にて小兒を哺育せんとする場合には、健康なる牛より搾りたる乳汁たるべし。——牛乳は人乳よりも濃厚にして、消化しがたきを以て、これを水にてうすむるの必要あり。又甘味の少き所は、砂糖を入れて、これを補ふべし。

その薄め方は次の如し。

生れてより三ケ月間は牛乳一分、水三分の割

四ケ月より六ケ月目迄は牛乳一分、水二分の割

七ケ月より九ケ月目迄は牛乳と水半分づゝ

十ケ月より十二ケ月迄は牛乳二分水一分

其後は水を割らず、全くの牛乳のみを與ふべし。（博文館發行、家庭百科全書第十二編婦人の生理と衛生）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭に於ける母親の感化（上）

松村介石

往昔より、英雄とか豪傑とか或は聖人君子等と云はれるやうな人々の母は皆大抵偉い婦人である。父の偉いのには余り偉い子はない、どうも父親が偉いと云ふと子供は却て父に依頼をして馬鹿な子が出來て仕舞ふ、これはどうも西洋でも亦東洋でも定まつて居るやうである。

そこで母親の感化と云ふ者は、先づ生れて直ぐから乳を吞ませて、朝から晩まで云ふ者はなか／＼一通りの事ではない。又學校に行くやうに成つても、母親の感化と云ふ者は迚も學校にて先生が敎ゆるよりは遙かに大なる者である。所が其母親の心得と云ふ者が、今日は何うもだん／＼と上流社會になる程、其大切な子供に訓誨をする事もしなければ、又さう云ふ事には一向心を用ひない。今の英國の皇室では女王自から子を育てられたのである。即ち御自身が乳母さんと成つてお育て成さつたのである。日本では皆子を他家に預けたり、或は人に育てさせたりして滅多に自分の子を見ない人がある。これは甚だ好くない風である。そんな事で以て感化の出來る者ではない。上流社會よりは中流社會が一番善い、又下等社會に成つて來ると云ふと、子供の躾等は少しもしないで放つたらかしにして置くから、十中の八九までと云ふ者は惡い方に傾く。それと云ふ者は他家の惡い年上の子僧と遊むだり、又馬鹿な子供や或は碌でもない者と始終いつしよに成つて口穢ない言葉を通ふたりして、てんでもう無敎育なる者とばかりいつしよに成つて遊むで居るから、そんな躾けやうで善い子供の出來やう筈はない。其處で、まあ一番望みのあるのは中流社會であると云はなければならん。所が此中流社會を見ても、是に深く意を用ひて居る母親は澤山はあるまい。只可愛とか、偉い者に成つて貰ひ度と思ふ位の事は、そりや普通の事であつて、又どんな人でも其位の考へは有つて居るに相違ない。只さう思つた位の事では駄目である。子供は幼い時分にちやんと育てゝ置けば、幾等大人に成つてからと云つても、幼少い時分から母親に躾けられた事は容易に拔ける者ではない。

私は幼少い時分に母親から毎晩のやうに、往昔の偉い人の話や或は親孝行の物語をして聽かして貰つたり、又色々なお伽噺をしてくれました。勿論其話の中には子供を喜ばせる事や、又は面白い事や又は敵討の話もある。が、其話の中には必ず道德的の意味を含ませて、さうして子供に能く了解るやうにして話を聽かしてくれた。今でも其等の事はちやんと覺えて居る。私は自分が幼少い時母親から受けた感化と云ふ者は非常な者である。其で、自分の幼少い時の事を思ふて、今の世の一般の母親となる人に向つて、此處に注意して貰ひ度と思ふ。

九州七島筵の由來

九州に七島筵と云いふのがある。この草を疊の表に織れば、備後表よりも丈夫であるのみならず、縄でも草履でも、この草でこしらへれば大層丈夫である。

全體、この草は、昔は只だ鹿児島の七島ばかりから産し、他には一向無かつたのである。それを三百年ばかり以前に、豐後の國に橋本某と云ふものが居つて、之は屹度有益なものに相違ないと云ふので、私に七島に渡つて、之を取らうとして、兄は不幸にして途中で死んだ。すると、今度は更に弟が行つて途に目的を遂して豐後に移植したのである。かゝる次第であつたのが、今日では最早、九州各地到る處に産し、七島筵として九州に於ける物産の一として數へらるゝ他、尙海外に向つて數百萬圓づゝ輸出されて居る。（成功――前田正名氏談）

毛髪用
パール
東京平尾分店

子供の骨骼と衣服（二）

東京女子體操音樂學校長　藤村豊子

▲子供の體格と衣服

世人が天性と思ふて餘り注意せぬ所の俗に云ふ鳩胸なるものは、胸骨が前方に突出して狹き胸膈を爲せるもので、之は赤坊の時に、襦袢などに紐を着けて緊縛したる結果たることが多い樣です。又俗に流れ肩とて、肩骨の下りて胸廓を狹くするのは、多くは幼時に長き重き袖を引き下げたる結果、此に至るやうに思はれます。

又蛙足とて、股が開いて直立姿勢を取り得ぬのは、赤坊の時に脚を開いて脊負ふたり、又骨が軟くして立つ力のないのを無理に立たせたる結果である樣です。蓋し鳩胸、流れ肩などの體格を有するものは、槪して身體薄弱にして呼吸器病に犯され易く、又俗にいふ蛙足は、歩行の際に不便なるのみならず、歩行毎に臀部か動搖して外見も宜しくありません。而して往々生れもつかぬ畸形に陷ることが多いのです。子供が一旦かゝる骨格に變じたならば、之れを完全に矯正することは容易の業ではありません。

子供の體格を强健にし且姿勢を整頓するに當りて母親たるものゝ、第一に注意すべき事は、衣服の仕立方と着せ方とであります。近頃は衣服改良の端緒として女兒にまで多く筒袖を着せ袴を穿かせるは實に結構な事でありますが、只遺憾なのは、此事が多く小學校生徒以上の子供に行はれ、幼稚園以下の小兒には夫程行はれて居らぬ事であります。

然るに世間の育兒の狀態を見るに、子供の體格の惡しき習慣を附けるのは、多くは小學校に入學する前で、就中初生兒に對する注意が存外缺けて居る樣であります。初生兒の養育は極めて重要なるものでありまして、若し其頭の恰好が惡く或は長過ぎたり半分高かつたりするのを見ると產婆が驚いて直ぐ揉直す所を見ても其理由は瞭かであらうと思ひます。

私が一二歳以上の幼兒に多く見る所の恐るべき體格の異狀は、胸骨が突出して鳩胸になつて居るか、或は胸骨部か一層凹陷で胸の前後の直徑が短くなつて居るか、又は肋骨と胸骨とより成れる、圓筒形の中央部即ち乳の邊に輪の如き凹所があつて、恰も瓢の如くになつて、右前の紐を左の脇に通して後方にて結ぶのは、衣服の方に餘裕があるので害が尠ないが之に反して後方から廻はして前に結ぶのは、其害が太甚だしいのです。又子供は一歳でも、肢體の大小に應じて、三ツ身でも四ツ身でも、可成餘裕のある衣服を着せるのが宜いと思ひます。現に私の甥などは、未だ滿一年になりませんが、一ツ身では狹くて胸が開きますから、四ツ身を小さく縫つて着せて居ります。

中流以上の家庭に於ては、赤坊に立派な重い衣服を重ねて、且つ身丈よりも長い袖を附ける習慣がありますが、子供は其重さに堪へずして、大人が鎧でも着けた樣に感ずることでありませうが、之れが自然流肩の原因となるのです。漁業者や貧民の子供に流肩のないのは、此袖がない結果ならんと信じます。然るに世の親達が、自己の樂みとして、長き重き袖の衣服を着せ、啻に子供の苦痛を顧みざるのみならず、生涯之を薄弱なる身體にするのをも懼れぬといふのは、實に憐むべき次第ではありますまいか。

最新中等唱歌集

敎科書として文部省檢定濟になつて居る本です。收めてある歌詞は、旗野十一郎、加部嚴夫、小森松風、三田葆光、林醫學博士（鷗外）、下田歌子等諸大家の手に成り、作曲は數番の原曲以外は、現今斯道に嘖々たる名家の手に成つて居る美し本であります（定價五十五錢・京橋銀座三ノ二、十字屋）

小説

隱れたる德 (四)

齊藤吊花

「お媼さんの一生の中には、種々の出來事があつた。一々丁寧にお媼さんは若い時分から日記をつけて置かれた。新在家といふ村へ嫁入されたが、檀那が死なつて、また元の橋詰の家に歸られた。それには種々事情がある。美しい標致持ちだから、あれで朽さすのは惜しい。と、皆が云つて、中には、是非お嫁にと申込んだものがあつた。が本人は一生後家で通す積だと云つて縁談には耳も傾けなかつた。

その翌年、吉右衛門殿は、娘の看護を受けて、安々と墓に下られた。村が始まつてからの會葬者であつた。生前、德を施こされたお陰だと皆が口々に云ふ。

身代と云つては、大抵吉右衛門殿在世中、公の事に費ひ盡して、根が淡泊の人だつたから、辛くも、お光さん(愛國媼さんの名)が一人息子の欣一郎殿を育て行くだけしか殘つてなかつた。欣一郎を立派なものにしなければ、歿くなつた亭主に濟まぬといふので、お光さんは、一生懸命に稼がれた。畑の世話もせられる。紡績もせられる。よく、あの位根氣と軀が續くものだ。と皆が感心した。

年は經て、欣一郎殿は中學校を卒業された頃、明治廿七年といふ戰爭年を迎へた。村の若者は徵兵となつて、支那に行くといふ。同じ年頃の子持ちのお光さんは、「これから行つて參ります、後の處はよろしう」と挨拶に來た村の若者を捉へては「國の爲ぢや、どうかの、勇ましき手柄をして、村の名を輝かして下され欣一郎は、あゝいふ弱い性質で、兵隊には行かれぬが、その代り、學問で國に酬ゆるだけの事をさせます。お前方ばかり村の名代に立てて戰にやつて、兵隊にからぬ者は、炬燵を抱へて、晝寐などはさせぬから……」と人々を勵ました。

演習がある。輜重車が村へ入る。砲兵が來る。この近在で、砲車を引いて通れるのは此村だけぢや。と隊長が非常に褒めて、吉右衛門の村治を感心され、是非に其賢女に逢ひたいとの事。お光さんが、村の往來を毎日廻つて、往來に石礫があつては、人が躓いて怪我をする、若いものなどが、それで足でも傷めて、國の役に立たぬ事があつては、朝廷に對して濟まぬと、一々ふれて廻つたといふことを聞かれた時、隊長は眼に一杯淚を溜めて「何といふ心掛のいゝ婦人ぢやらう。其樣いふ公共心のある婦人が百人居たら、日本は立派に政治が行へる」と云はれた。(本誌第百七十號よりつゞく次號完結)

スミレ香水　東京 平尾賛店

お伽小説

妖魔の森

神谷つくば

(四) 珍らしい花の香

都にも無い樣な、珍らしい佳い花の香ひが何處からともなく漂ふて來ましたので、老貴族は不思議相に

「オヤ〳〵何と云ふ花だらう、一體奈邊から香ふんだらう」

其處此處と見廻しましたが判りません、

「ハテナ此の森の中かな」

日光も通はぬ位、鬱蒼と繁つてる森の中は、うす暗くて見通しが附きませんが、老貴族は如何しても森の中に違ひないと決めて家從を呼び寄せました。

家從は若し惡い獸でも居ると、どんな間違が無いとも限りませんから、切りに老貴族を諫めましたが、

「少さい姫は花が大好きじや。彼の珍らしい花を採つて還つたら、さぞ喜ぶ事だらう」

少さい姫は末子の事です、末子は優しい兒で、父にも母にも四人の姉娘にも、可愛がられて居ります。老貴族も末子を取り分け愛して居るので、末子が最も好む花——世にも奇らしい花が森の中にあると知つては、如何家從が諫めたつて聞入れる筈がありません。

老貴族は家從を連れて森の中に這入ました昔から出た人の無いと云ふ妖魔の森の中に、それと知らずに這入つたのです

(五) 俄かに風が

暫らく行きますと、森の中は急に明るくなつて、花の香は何とも云へない程、佳い薰りを送つて參ります。

見ると紅い花、紫の花、青い花、白い花が、目も醒める計り一面に咲き亂れて綺麗な蝶々が長閑に舞ふて居ります。

「殿樣、此はまア如何致したもので御座りませう。今は冬ですのに茲の容子は」

始めは恐る々々貴族の跡から隨いて來た家從は夢心地になつて、其邊を飛び廻つて居ります。

和らかな草の香に交つて、濃い壺菫の花が刺繡のやうに薰つて居る處に、老貴族は憩んで、暫らくしてから香の樹に咲いた美しい花を、種々折取つて居ますと俄かに風が吹き起つて、向ふに並んだ椎の大木の洞虛からは、眞白な霧が湧て來て、見る間に花も草も家從の影も匿して仕舞ひました。

そして此れはと驚く老貴族の前に、現れた者が御座います。

講談

鳥居强右衛門 (四)

大島光利口演

騒ぎ立つて群り集まつた雜兵共は、川面を仔細にあらため、何の異情もなきを見て、互に顔を見合せつゝ最聲高に話すやう「カン今度は木ではない此岩代川も魚屬が棲み居れば、鰌や其他の魚が遡ぼるので遂縄に觸れたものと見える、高の知れたる魚などに欺かれ眠りそこなひし淺間しさよとつぶやき〳〵幔の裡に入る時しもあれ目に燒鐵を當るが如き電火は雲を劈て光つたる物凄さ、流石の勝高も驚ひて天を仰げば、忽ち雷鳴おどろ〳〵と木精なして、響き渡る、之に驚ひたる甲州の武士どもアナヤと叫んで一同耳を押へて莚の上へ伏もあれば又は兩眼を閉、桑原を唱へる者もある亡國の武士其士氣の沮喪の態眼前に見えたれば、勝高は是時に在りと衣服を脱捨、鐵砲を背負、獱獺の巾着を胸の邊に綁つけ逆卷流れる瀨を除けて澱がちなる深瀨へソット降立て拔手を切つて泳ぐ時、用意の小刀を拔取り蛛手の如く張り詰たる細引を引切り、彼方の岸へ泳ぎ着、弓矢八幡を一心に念じ敵陣の前をソット乘切る時、雷鳴益す劇しく、身を忍ぶ便となりホット息を吐き岸へ跳り上つて木傳白猿の如く山の絶頂に駈上れば、夏の夜は短くして山の端に聞える鷄の聲、四方に亂れて鳴つれる鬱蒼たる古木を離れて鳥は四方へ飛去る東の方白みければ今迄の雷鳴は靜り、朝ぼらけの月は朦朧たる光あり、是時强右衛門身に着たる袋を改むれば獱獺の巾着に更に水氣なく油紙を引解けば中のホクチも聊か濕はあるに似たれども合圖を爲すに差支えなし、落たる木の葉又は枯木を集め摺火付て火を點し、顏差入れて吹付ける、折しもサット吹來る朝嵐の忽ち焰となつて舌を吐如く煙宙天に立騰りたる容子、城内の喜び如何ならん、此の煙を御覽し給へよと獨言つゝ險阻の山を越て谷に下り人目忍んで其翌日彼是晝過る頃、三州岡崎の城下に着きました。勇み立つたる强右衛門は檜の枯木の杖に縋り城内指て進まんとする時しもあれ、遙かに聞ゆる人馬の物音、顧眄れば眞先には御主人奥平九八郎貞昌公の實父奥平美作守貞能公小栗勝介等路しるべをなし、後より續く大軍は木爪の纒、複竣堂々として宙天に飜へり、美濃國岐阜を出發せられたる織田上總介信長の同勢、柴田瀧川木下などを從へられ、宛然勢い破竹の如く、岡崎城を指て乘込み來る。

餘りの事に勝高は夢見る心地に跪きつつ拜伏すれば、近寄り來る軍兵共、勝高の後前左右を取卷きつゝ○「コレ何者じや見れば襤褸を纒け乍ら、一癖ありげの面精神、何故此邊に彷徨ひて居る」と云ひつつ槍を突付れば强右衛門恭しく兩手をつき、强「御尋ね恐入りまする、怪しき者には候はず、御見受け申するに、只今成らせられたる御先手は、奥平美作守能貞侯にはお在さずや」と云へば雜兵不審顏。○「ウン如何にも御主君奥平貞能侯である、夫と知つたる其方は、如何なる身の上の者なるぞ、包み隱さず答へせよ」と問はれて勝高嬉し淚ハラ〳〵と流し、强「之は長篠城內の者にて、數にも足ぬ小身者、鳥居强右衛門勝高と申し、今日御當地に入りたるは、武田四郎勝賴殿、大人氣なくも目にあまる大軍を以て長篠を圍み、一擧に勝負を決することなく、卑怯にも遠卷となし、兵糧責のその爲に、悲しや御城内兵糧盡き果て、勇士は髀肉の歎に日を送り、然ればとて無法にも討つて出るは味方の不利益、故に日を移す裡には彌々兵糧に困み、御主君九八郎樣始め松平彌九郎樣其他の方々八百人、只手を拱ねて餓死を待つ而已、君命を受け敵の包圍を脱れ出て、漸く是迄來たりしは即ち後詰を乞はん爲……。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭

印度人の發明せる新しき呼吸法

此呼吸法は、米國市俄古市ヨーギ出版會社出版の「ヒンヅウヨーギ呼吸術」と稱する書物から其大要を抄出したるもので、我邦人の日常之れを試みたならば、健康上大に裨益する所ありと信じて、茲に紹介する次第であります。

凡て呼吸器に關する疾病は、深呼吸法の實行によりまして撲滅する事が出來ると云ふことは、其向の專門家の常に唱導する所であるが、實際上には、それが世間に充分行はれて居ないのであります。

▲深呼吸と呼吸の不完全

深呼吸とは、完全に呼吸する事である肺臟の容積のあるだけそれだけ空氣を充たす事である。所が、吾人は常に空氣を充分に呼吸して居らない、であるから、吾人の肺臟の或部分には、始終新陳代謝せずに居る空氣があるのである。

吾人の生命は、食物がなくても、數十日間は存續して行く事ができるが空氣がなくては、數分間も生きて居られないのである。野蠻時代の人類は、他の動物と同じ樣に、完全に呼吸して居つたのであるが、世の文明が進むと共に、生活法に變化が生じて來て、坐作進退が究屈になり、郊外の生活よりも室内に居る方が多くなつたので、自然、呼吸法が不完全になり、雜多の病氣が生じて來たのである

▲印度人の特殊呼吸法

人の身體の健、不健は、其肺臟に容る空氣の多少によるので、多量の空氣を取る人はそれだけ健全であり、少量の空氣で滿足する人は、それだけ不健全となる次第である。印度人は、數世紀前より、此點に注意し、「ヨーギ式呼吸法」なるものを發明し、之が實行に努めて居るから彼等は彼の通り、健全であるのであります。

「ヨーギ式呼吸法」は、極めて簡單であります、余り簡單であるので却て人の注意を惹く事は少なかつたのでありましたが今日では、歐米諸國の紳士淑女の間に、隨分に盛んに行はれて居り身體を健康に保つには、此法に勝したものはないと言はれて居ります、之を行へば、呼吸器は緊張し、肺臟の全部は活動して來まして新鮮なる空氣は、血液の循環と共に身體の各部に運ばれるのであります。

▲ヨーギ呼吸法の特色

「ヨーギ式呼吸法」の特色は、呼吸の終に於て頸骨を上げ、右肺上部助骨の狹少なる部分まで空氣を容れ、結核菌、其他疾病の原因地を掃除するのであります。胸部の狹く發達せないのや、肩のこけ落ちて居るのは、皆空氣が肺臟の隅々まで這入らないからであります。印度人等は風邪に罹つた時には、其日一日絶食して、此呼吸法をして癒やすとの事であります貧血症には、此の「ヨーギ式呼吸法」は最も有效であります。何故と申せば、血液の多少と云ふことは、肺臟に出入する空氣の多少によるのでありますから。胃腸の康健も亦た、之によつて保たれるのであります。

消化不良で、食慾のないのは、消化器の働きが常態でないからであります。常態でないのは、食物が血液中より、充分の酸素を呼收し、之を和合しないからであります。而して、血液中の酸素は何處から來るか。申す迄もなく完全なる呼吸法によつて來るものであります。

今日、體育の欠點は、四肢の發達にのみ努め、體内の機關の運動を忽にする事であります。體内の機關は、人體に要する需用品を製造供給する所で、外部の筋骨はそれを消耗する所であるのです。ですから、身體の健康を保たんとすれば、外部の筋骨の發達を計ると同時に、内部の機關を能く運轉さする事を怠つてはなりません。

▲ヨーギ式呼吸法大要

第一、眞直に立つか或は坐べし

第二、口笛を吹く時の如く、唇を緊め、出來得る限り孔を小さくし（其時頰を張らすべからず）靜に内部の空氣を吹き出すべし

第三、緊めたる唇を弛め、口を閉ち、鼻孔より順次に空氣を吸入す、最初肺臟の下部充たすべし。（即ち横隔膜を下げ、靜に下腹部を壓する如くして吸込むなり）

第四、次に兩手を以て胸部を開き、上部助骨の六七枚を突出する樣にして空氣を吸入し、此時、時々肩を張り頸骨を上げ、上部助骨の隅々まで空氣を入るゝ樣注意すべし

第五、最後に又初めの如く、口唇を緊め小さき孔より兩手を以て胸部を抑へ、横隔膜を引込む樣にして、徐徐と空氣を吐き出すべし。斯の如く空氣を吐出し吸入すること五六回に及ぶべし。動作を急激にするは宜しからず、一日數回、時間の許す限り行ふべし。

賢母嘉悦勢代子

海村

六

賢母勢代子は、また良妻として實に理想の婦人でありました。晩酌の醉、いさゝか來ると其夫は、忽ちクダマキはじめ後には叱り罵り、わきめも氣の毒のありさまでありました。それを一言のさからひもなく、唯々諾々として、極めて從順に、遂に堪へられずして、涙を袖にて隱す、そのいぢらしき樣子には、誰ありて同情しないものはありませんでした。しだらもなき說法を一時間以上も聞かされて、やがて「あゝ氣がふさいで可けぬ。一曲彈け歌へ」と云はるゝまゝ、直に三味線をとつて、調子を合せ、今までの涙はどこへやら、全く別人の有樣にて、極めて陽氣にはやしたりと云ふのです。

記者は此事を耳にせるとき、深き感慨にうたれたのです、夫を慰むるに於ていて自己の身も心もすべての事を犧牲にする偉大なる精神は、實に婦人の模範と云ふべき事ではありませんか。

七

明治の歴史を學べるものは、彼の明治九年神風連が、熊本に於いて亂をなした事を知つてゐませう。神風連は小楠派即ち實學連を鏖殺にせむの決心でありましたのです。師團長を殺し、縣令を傷けたのでありましたが、其時の事でありまする。嘉悦氏また此禍を免るる能はざる事情に逢ふ。

勢代子は泰然自若として、自ら家人を勵し、此時に當つてまた如何にかせむ、よろしく酒宴を張つて、敵の來襲を待つべしと云ひつつ自ら酒肴を斡旋して、盛なる宴を開いたのであります、然るに門前まで襲つて來た敵は、一人散じ二人散じて、遂に其影を止めずなつたのでした

（神風連の首領高津運記、長崎にあるとき嘉悦氏の恩を受けたり。其恩に報いむとして諸士と力爭し止むと云ふ）

孤城敵に包圍せられて、靜に琴を彈じたと云ふ支那の昔語りはあれど、我國にてかかる話は、頗稀なりと云ふべきではありませんか。此點に於いて、武士道的典型の婦人と云ふとも、溢美の言ではありますまい。（をはり）

可愛きものがたり

これは先き頃、愛國婦人會にて新たに設けられましたる幼兒敎育所へ、全國の愛國婦人會各支部から事務員が付き添ひ五十名の可愛ひ幼兒が上京した砌のお話で御座ります。

扨てもいよ〳〵芝の青松寺なる假教養所へ一同が到着すると直ぐに散髮と入湯を濟ませて會から支給した紺飛白の羽織着物、小倉の袴と云ふ扮裝に一同がなつてしまつた。

すると身の丈にこそ多少の差はあれ、五十人が五十人同じやうな新しき扮裝に何れが何れやら、知らぬものには見分けの付かぬばかりに、何の兒も同じ可愛らしさに見えました。

支部から派遣された事務員も、斯う着物が違つて見ると、何れが自分の伴れて來た兒か、鳥渡見分けが付かなくなつて「私の伴れて來た兒は、はて何れだらう」とは、何と可愛き物語ではムいませんか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

▲迪宮殿下の御聰明　皇孫迪宮殿下の御聰明に渡らせらるゝ御事は毎度記載し奉りし如くなるが殿下には先頃より沼津御用邸に御避寒あり石井學習院教授も供奉し參らせて御教授申上げ此程學年試驗の期に相成りたるより初等科一學年御修了試驗を行ひ參らせたるに申上るも畏れ多き程の御成蹟にて御合格遊ばされ第二學年に御進級あらせられしとぞ又淳宮殿下にも今年御學齡に達しさせられたるを以て來る四月より學習院に御入學相成る筈なりと申すぞかしこき

▲久邇宮妃殿下の御渡歐　久邇宮妃俔子殿下最近の御寫眞並びに御平常に就いては取敢えず前號に掲げたるが同妃殿下には春雨降り頻る二十四日午前六時半麻布鳥居坂御本邸御出門愈々御渡歐の途に上らせられたり妃殿下には過日來いと輕微なる御風氣の氣味にて近侍者いたく痛心されし次第なりしが厚く御攝養を重んじ給へることゝて昨今は殆ど御平日に復せられ當日の御食事も平日の通り召されいと御元氣に渡らせられたり

▲名譽の御菓子　愛國婦人會幼兒教養所教養生は去月廿三日午後大原寮長に引卒され假寄宿舍を出發し先づ宮城二重橋を拜觀し夫れより愛國婦人會總裁閑院宮殿下御邸を御見舞申上げたるに妃殿下には姫宮殿下を抱かせられつゝ正面樓上より御覽あらせられ聽て此方へ通れとの御意なりしかば孤兒隊は靜々と邸内に進みたるに妃殿下よりは美しき御菓子包を賜はりたり一隊は夫れより會長岩倉公爵夫人邸に赴き茲にても菓子包を頂き一同嘻嬉として歸宿したるが子供ながらも宮殿下より頂戴したる御菓子をば自分一個にて私するは勿體なしとて夫れ〲小包となして郷里に郵送し尚ほ別に葉書又は封書にて右の趣を申送りたりと云ふ又同廿六日午後一時より同假寄宿舍に於ては曹洞宗永平寺總持寺兩寺よりの慰問使が寄附せるお伽話、蓄音機、柔術の形、劍舞、繪ばなし、手品等の催しあり幼兒一同歡を盡せりと云ふ

▲傳へられし無根の風說に就て　近頃二三の新聞紙上に佐藤正氏が事務長代務を解かれしことに就き事情ありげの風說掲げられ居るも佐藤氏は兼てより事務長代務辭任の意ありしに當時偶ま適當の後任者を得しに基くの他別に深き原因もなきことなれども兎角愛國婦人會内部のことに就き事情ありげに傳へらるゝは當愛國婦人發行所に於て婦女通信を謝絶せるを同通信社の深く恨みて無根の事實を故ありげに通信せるに止まれるものなれば世人之を諒せられたく萬一誤解者もあらんかと念の爲め爰に是正するものなり

▲各學校の卒業式　女子音樂學校にては去月二十日土曜午後二時より神田青年會館にて卒業式を擧行、終つて樂媛會演奏會を開會▲東京音樂學校にては廿五日午後二時より上野同校講堂に於て卒業式、終つて演奏會を擧行▲跡見女學校に於ては廿六日卒業式擧行▲成女高等女學校に於ては廿八日午前九時より卒業式擧行、三宅文學博士、宮川壽美子女史の有益なる講演あり▲山脇高等女學校にては廿九日午後二時より同校内に於て盛大に卒業式ありしが、それに先ち廿四日には同校卒業生の催しにかゝるバザーあり▲東京盲唖學校に於ては廿九日午前九時卒業式を擧行▲女子高等師範學校にては去三十日午前九時より卒業式を同校内講堂にて擧行せり

▲若き夫婦身を慈善事業に獻ぐ　去月十七日の雪の朝本所區中之郷業平町の東京養老院の玄關へ音訪た十八九の女がある事務員に面會して、どうぞ院内の收容室を拜見させて頂きたいといふ、院長菊池尚彦氏は直に其女を案内して老衰者や孤兒や病人やの收容室を廻覽させた、スルト其の女は何か非常に感激した容子で、深く謝意を述べて、五十錢銀貨二個を紙へ包んで、是れは寸志で御座いますが寄附いたしたう御座いますと差出した、院長は如何なるお方で如何なる理由の御寄附ですと尋ねると、否々仔細あつて身分も姓名も申しますまい、たゞ憐れなお人達の爲めに寸志を捧げますとばかりである、遠い處から來たのであらう、衣服は雪に濡れて例の廂髪も餘程亂れてゐる、院長は火鉢に多く火を與へて濡れた衣服を乾かさしめ、貴女は何やら事情あり氣に見ゆる、こゝは御覽の通り別社會、何事も他に洩るの憂ひはなし、苦しからずば御話しあれと優しく問れて、感情に脆い女は忽ちに涙になりて、實私は菊池つる(十九)と申して當院の四谷の事務所へ此頃御雇人に成ました茨城縣士族菊池德雄(二十)の妻で厶いますが、良人は獻身的に此事業に從ふからは女房など持て悠々としては居られぬと申して私は昨夜離別されました、夫故今朝良人が從事いたまする養老院の事業といふはどの樣なものかと存じて實は其内容を拜見に參つた譯並大體のお世話でないことが全く明瞭いたしました、私も是から奉公いたしてなりと良人の事業を助ける覺悟で厶いますといふ、院長始めて此の夫妻が健氣な決心を聞いて以ての外に驚喜し、其のまゝおつるを止め置て、直に電報を以て四谷事務所なる菊池德雄を招き段々事情を聞質すると全くおつるの云ふ通りなれば、更に院長は夫妻の間に立て口を利き、強ち妻を離別せぬとても此の事業に從へぬ事もあるまい兎に角世帶まで片附けたとあらばおつるどのは本院に預かりて收容者の世話を託すとすべし、離縁の事も此まゝ本院に預かり置いて夫妻諸共益々勉強して貰ひたいとの扱に夫妻も大に安心しておつるは潔よく其日より紙屑部屋に入りて他の收容所と共に屑選りを勵んで居るとは今の時世に珍らしい若夫婦の心掛けである、おつるは東京府士族左田幸作といふ人の次女

野邊の若草もへ出でゝ櫻の花も咲き匂ひ老も若きも長閑なる春の彌生にあこがれて漫ろ心の浮き立つ折から所は神田一ツ橋通町山田屋洋傘店は卅余年を洋傘專門に家業大事御客大事と勵みし甲斐に四方の御最負日に熟く確實い店との御評を賜り難有がりて當店とても今一層の勉強を以て優美堅牢は申に及ばず流行品の魁けせむと製造方も販賣も一家車輪の働きはきつとお安く差上げますれば御用の節は電話か葉書で早速品を御手許へ御進物には商品切手も亦先樣の御便利なり

▲石川縣の大火　去月二十五日午前一時石川縣下能美郡小松町に出火あり折柄南西の風烈しく忽ち八方に燃え擴がり三百四戸を全燒し午前七時鎮火せり火元は湯屋業杉本石松方にて市街の要所を燒き盡し加賀實業銀行、小松商業銀行も亦災に罹り死傷少からずと

●外科　午後往診　夜間診療
本鄉區元町一の十四(浄水地西南隅)
醫學士　三原新太郎

腦神經精神病科
病室清新　診療確實
東京龜戶町　電話浪花二五五二
加命堂腦病院

產婦人科　小兒科
院長　女醫　鷲山彌生
診察時間　毎日午前八時より
醫員　毎日午後三時より
內科部長　醫學士武智基造
診察時間　火木土午後壹時より
病室及產室の設けあり入院隨時
東京市麴町區飯田町四丁目卅一番地
東京至誠病院　電話番町二二五七

日本の家庭に応用されたる支那料理法
女子商業學校 女子美術學校講師　柴田波三郎氏
成女高等女學校講師　津川千代子　共著
定價金五十錢　送料六錢　郵券謝絶
東京新宿北裏町百二番地
日本家庭研究會
電話番町二〇二八

器具新調を要せず方法至極簡易材料何處ででも得らるゝ滋養豐富衛生甚だ善く美味世界の第一位
石黑山根嘉悅三先生は本書の卷頭に序して此を日本一般の家庭に用ひて如何に大なる價値あるかを熱心に證明せられたり
愛國婦人の讀者に限り定價の一割引、送料と併せて五十一錢にて即時發送すべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

佐々木信綱撰評

天　岡山　西村長子

うくひすとともに歌はんのどかにて思ふことなき春の心を

評　おだやかなる歌、まことに春の心のこもれるやうにて

地　横濱　板倉かずえ

高麗人がゆるき白衣に春の日の流るゝやうに咲きぬ白藤

評　二句四句のにのかさなれるは調よろしからず すべていひざまはよからねど、着眼の新らしきを以て採る

人　青森　留目文子

大空のひばりのうたをきゝながら畑耕しぬ長閑なる日を

評　長閑なる農夫の生活よくうたひ出られたり

秀逸

引く駒のたづなゆるへて賤の男がしばしばはます野路の若草　山口　末田貞節子

春雨はいつしかはれてかげさへも匂ふばかりに月はいてけり　横濱　鈴木まつ子

夕月夜櫻のかげにこまとめて花みる人のかげおぼろなり　岡山　横山明子

日かけさす椽の小障子そとあけてなく鶯を透かしつるかな　廣島　金原なを子

たんぽゝの花咲く岸にうなゐらがよろこひあひぬめたかすくひて　鹿兒島　松村壽賀子

毋がぬふ花見衣のいろはえて火かげもにほふ春のよひかな　三河　蟹江とよ子

岩つゝじ咲く岩角の白浪に足ひたしては遊ぶ磯の子　伊豫　中尾むつ子

梅が枝にふれる泡雪すくひ來て獨り茶を煮る春のよひかな　岩代　長谷川よしの

甲

訪ふ人もなき山里のひとつ家の古巣にかへるつばくらめかな　三重　莊司種子

うくひすをおどろかさんもさすがにて園の戸しばしあけわづらひぬ　三河　蟹江とよ子

若葉ゆらぐ木立の中の御佛をろがむ耋のうぐひすのこゑ　越後　杉山節子

まゆこもる柳に殘る月淡く梅か香たかし春のあけぼの　東京　杉中春子

少女子の親しき友と歌ひ行く姿かすみて見ゆる春野邊　長岡　櫻井たみゐ

靜けさのなほまさりぬる鐘の音やくるゝもわかぬ春雨のやど　茨城　衣笠きく子

父君に別れし春のしのばれてあはれ今年も花の散りゆく　石川　篤子

櫻さく春の旅路はゆきくれてやどるもおなし花の下宿　山口　末田竹子

春もやゝのどけかりけり朝戸あけてながむる野邊の空のけしきは　青森　三上八重子

若菜かご手にもちて出てし子のすがたうすれて見ゆる春の野　美作　清水梅子

わが心なにとはなしにいさゝかのなやみおぼゆる春雨の日よ　美作　八木清子

日枝と比良京さ近江とおしなべてうすむらさきにかすむ明ほの　東京　露緒子

し

ふく風もさはらぬさまに谷かげに匂ふさくらのしづけかりけり　横濱　鈴木まつ子

綸日傘をかざす車の行過きて櫻散るなり御社の前　長野　塚田忠子

春雨ににはの木のめや紅梅もうちしめりたるうぐひすのこゑ　吳市　竹入勇子

山守がいほりにこよひかりねして心のまゝにさくらからまし　青森　田島正子

春風のふくがまにまにまかせてもなれすたわます庭の青柳　岐阜　小島駒子

千歳川今朝は霞に埋れてせける流れの音のみぞする　北海道　小野寺ちとせ子

八重霞たてるとみえし夕まくれ軒のしのふに春の雨ふる　三河　山内經子

裏庭にほころびそめし梅が枝もさぞや初音の戀しかるべき　京都　松谷春子

すみれ草さかりはこしと妹の寫せし筆のあとやしほらし　山城　中とみ

思ふことなくてあそびし友垣のうへなつかしきひな祭かな　京都　津田君子

春の日のうららに四方を照らしけり雪ある澤に福壽草咲く　青森　竹林秋子

姉君の歌をよみます友として日毎來てなく鶯のこゑ　美作　清水恒子

▼恒子氏は清水梅子氏の令妹にして、本年十三歳初めての詠草なる由

さく來ませ君と結ひたる我が宿の桃のさかりと友よりの文　淺草　下岡こま子

俳句

內藤雪鳴撰評

——春季雜題——

天　岩代　長谷川よしの

陽炎やよき稚兒遊ぶ嵯峨の道

評　御里御坊もほど近く

地　橫濱　板倉かずえ

大寺に朝の灯見えて春寒し

評　御佛は皆金身

人　京都　佐々木千勢女

紅買て行く男あり春の宵

評　女尊男卑

秀逸

さはがしき女の聲やほとゝぎす　東京　芳賀リュ

春霞消ゆるともなく消えにけり　下野　黑須菊子

雛棚を櫻に向けし座敷かな　岡山　西村長子

老鶯の聲せわしなく春の行く　前橋　津村義江

草に座して姉と妹の花見哉　美作　清水梅子

神祭る小山を堯る櫻かな　東京　中山文子

草刈の童も馬もかすみけり　青森　田島正子

青柳の露の下行く小傘かな　東京　鈴木榮子

よき衣の着おろし寒き梅見哉　神奈川　森田田鶴子

打仰ぐ花に腰伸す翁かな　備後　世應鍋子

春雨に書齋の障子軋みけり　青森　竹林秋子

折り添へて樂む如馬の山さくら　三重　莊司種子

一群は廓なまりや汐干狩　韓國　市村靜子

屋根舟にちる櫻あり晝の雨　東京　齋藤靜香

△俳句選者よりの來狀▽

內藤鳴雪翁から左の御手紙が參りました。早速原稿を探しましたが、一寸見當りませんので、唯だ〻選者及作者に對して恐縮に存じて居ります。

拜啓愛國婦人前々號俳句天の句は別句を誤りて掲載相成候ものにて評語に對して何の關係もなきにても明瞭に候就ては原稿猶あらば改めて御再掲被下度、存せずば其旨御廣告被下度奉願候、右は小生選句の體面に關し候間御手數ながら可然御取計ひ願上候云々

出版界漫言

▲辭書は二三年以來雨後の筍よりも澤山出で居る。殊に普通學程度の辭書と來たら、とても數へ切れる者では無い。然るに今度俗語辭海と云ふのが出來た。

▲著者は多年育英に從事して居た堀籠美善君其他二氏の合著で、日本橋下槇町の集文館の發行である。

▲內容は一言にして言へば豐富である其名の示す通り、日用の俗語、換言すれば明治時代の普通語、二萬五千餘を新聞雜誌出他の記錄から、採集すること拾年にして始めて冊刊された

▲特色ある辭書で、一般の家庭に備へて、最も便利な最も有益な辭書である。

▲文學博士芳賀矢一氏は著者の日常を克く承知して居られるので、日頃眞摯篤學なる著者諸君の著述であるから、內容は閲ないでも、好い本だと斷言する事が出來る、と序文で賞めて居る。

▲特價四月二十日迄は特價金壹圓參拾錢で、期限後は正價金壹圓八拾錢で無ければ賣らぬ相である。

▲紹介子は家庭向の最良辭典として特に愛讀諸氏の閲覽を御奬する。

* * * *

▲近世風俗志　本年初刷の誌上で、御紹介した風俗志の下卷は、先頃麹町區飯田町の國學院大學から出版された。

▲徳川時代に於ける女の髮飾り、服裝化粧の變遷、歌舞伎狂言の事から、市井の雜事等、細大洩れなく集て、一々圖解をして居る。飜刻で此れ程丁寧な懇切な出版物は、探しても多くは見當るもので無い。

▲珍本守貞漫稿は斯の如くにして、容易に見る事が出來得るやうになつた。正價は上下二卷で金六圓の處、當分は特價金四圓で宜しいと云ふ事である。

▲帝國圖書館で金八拾圓を出して漸く手に入れる事の出來た、守貞漫稿が今わづかな金で、買ひ得る樣になつたのは、讀書者の非常に欣ぶ處であらう。

▲乳人政岡　伊達騷動で名高い政岡を中心として、上卷、後篇、續篇の三冊併せて千數十頁。隨分讀み出のある小說でムいます。著者は時代小說の大家、碧瑠璃園氏でムいますから、面白からぬ筈は無い、紹介子も一氣に讀み終つて仕舞ました。『萬治三年の二月十五日、春はやゝ中旬に入りて、梅にも月にも景色識はんとしたるが、昨夕より降り續きたる雪に、初音漏らせし鶯も時に籠り……』と云ふ書出で、筆を仙臺城內三之丸に於る雪見の茶會に起し、原田甲斐、伊達安藝の兩派及綱宗綱村の兩侯を中心として活動せる男も及ばぬ烈婦政岡の苦衷を、變化に富める筆致で述べ現はし『綱宗殿は絕えて久しき綱村殿の御手を取らせて「龜千代殿よう御無事であらせたの」と嬉し涙に咽びたまふ、その顏を熟と見て「これも皆淺岡忠義の賜物でムります、淺岡なかりせば、私は今日生きて父上の御目に掛ること協ひませぬ」と是も涙の中に云はるゝ「淺岡は白川主殿の妻じや、予はその主殿を手に掛けたるに、妻の淺岡は却つて我子の危い命を助け吳れたるな、怨せ、怨せ」と宗若を近う招きて「さても主殿に酷く似つる、そなた父の忠義を受け繼いで居るわのう」これにて淺岡の忠節は萬代不滅なりき宗若は二世白川主殿と呼ばれて、綱村一代の忠良なりき』と筆を結んでありますこ淺薄なデモ小說の横行する今の世の中に家庭向の健全な讀物として、紹介子は此書を御奬め致します。定價各冊金七拾五錢（京橋區中橋廣小路六番地梁江堂發行）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

午前九時

特等　京都　露緒子

庭の敷石水打たれ、表裏の廊下拭ひ清められつ、手水鉢水滿たされ、手拭更へられ、庭下駄は沓石の上、雑巾は蔭の竿に、バケツ目隠の後に、桶は流しの棚に、洗ひ米は神棚に、干杓は水甕の上に、各々安らかにおかれ、髪は梳られ、新聞は七面までよまれ、縫物はへらが濟みて、今朝の出來事二つ三つ噂にのぼる頃。

評　題を課したる撰者の、豫期以上の佳什なり。乃ち推して特等とす。

三等　東京　杉中春子

父樣御出ましよと云へば、襖障子を傳ひ傳ひて、覺束なき足を玄關に急ぎ。御靴召す間を待ちかねて、紅葉のやうな雨手を出すに、門迄よと抱きたまへば、紅梅のやうな薄紅の頰に、可愛らしい笑窪見せて、廻らぬ口に、御ばあ樣〳〵と手招きする、後よりこれも滿面に笑みたゝへられた祖母上が、云ひしらず嬉しげに從ひ給ふ。かくてわが家の午前九時は日毎くりかへさるゝのである。

評　春のごとき家庭の王。

秀逸

〇〇　東京　中隈富士子

照りもせず曇りもはてず、今日も霽げのあやしき空、友がり訪れやうか、やめやうかと眺むる折しも、パザと軒近い樹の枝から、雪くづれしていつ來たか四十雀が二羽チチと騒いで居る、お可愛と思ふて居ると、續いて鶯がしかも四羽梅に來て咲き匂ふ花の中を、あちこち飛び交ふ羽風に、白片ひら〳〵何とまあ今朝は嬉しい事であらう。

評　水晶の器に水をもつたやうな筆

〇〇　越中　天野久子

カンカンと一報が響くと打どよめいて居た五百の見童たちまち八組に正列す、我は二學年の前に立つた少い體に短い袴いかにも可愛い少年許り級長が出て氣付けーと叫ぶ快活さ、是が總て三軍を指揮する大將の聲ではあるまいか、教室に入ると瓶のばらが馥郁と薫つて居る、なほ又正九時の始業鐘が鳴る、いつか活々とした一同の眼は我に集まる、この胸のやうな少年の天晴れなる未來を作らんとする私は何というふ幸福だらう。

評　大悟徹底の文。

〇〇　越後　杉山千勢子

いつにない晴天、張物しやうと結ひたての髪に、襷く頂いた白の手拭、日向へ出ると風が撫づるやうに吹けど、亂れがちになる、源平桃の花蔭にたてかけた板へ赤のもみ裏のべる手に、花瓣がこぼれるこれも運命の神の御手業、若草の垣根に雛がふいに鳴きたてた。振りむけば母上の御出……精が出ますの早く終はうとせつせとやりかける。早やこんなになつたのか。九時がなつた。

評　讀んで心地よき文なり。

、、、〇　岡山　西村長子

あゝ今が學校の始まる時だな、今日は作法のおけいこして頂くのだとよろこんで登校しましたから、今頃は讀んで習つて居るでありませう。

評　簡單にして、子を思ふ親心のあたゝかさ、よく現はされたり。

、、〇　美作　八木清子

軒端に歌ふ雀の聲に、夢の浮橋はたと絶えて、雨戸繰ればよべのおぼろ月中天に殘りぬ、朝の勤めは終へぬ、かれて契り置きつるに友の君はまだ訪ひまさず、暫し息はんと詩集手にして花の木陰に立ちよれば、さと散る花、三ひら二ひら詩集の頁に。九時。友の姿はるかに花影に現はれたり。

評　早起の君にも在すかな。

、〇　大分　桂木靜子

昨夜の勞れで今朝は思はず寐過した、驚き見れば早やお日樣はにつこりした御顔で、下界を照して居らつしやる。びつくりして洗面もそこ〳〵食事濟して机の前例によつて紙上に蚯蚓流をぬたくり廻した。まあ拙い事。我ながら手蹟の惡いのに愛憎がつきる。傍に見て居た夫迄が「靜さん又ロウキの行列か」とさん〴〵冷かされて漸く長谷川よしの樣と書終つたら丁度午後九時

評　主婦のくせに勝手元の指揮もしないで、寐込んで居るとは、餘りだらしないでありませんか。

、〇　青森　竹林秋子

妾は今は五時半にはきつと起床いたします、九時までは御飯の仕度や、弟妹の世話や、臺所の仕末やらで一寸も暇がありません、目まいする程でありますこれ等が濟めば、とにかく一休みして、お茶でも飲んで元氣が付くと、こんどは妾の部屋に行つて、詩集も繙く事が出來ます。此時はいつでも九時頃であります、之を書いた時も九時でありました、

評　すとし、つとち等の假名遣ひを注意せられよ、

新體詩

一等　東京　神澤幸子

春ゆく窓

山の麓の丘にして
あり立つ椎の大木の
蔭ぞこひしき、夕まぐれ。
華やかなりしまぼろしの
その日は遠き世なり、今
われは人妻わかき血も
たぎらぬ胸の奧所に
面影ばかり在すかな。
春ゆく窓に袖かけて
昔おもへばなつかしき
雨もふり來ぬ、つばくらめ。
行けよ常陸へ、むらさきの
筑波平に。よしやいま。
古へ人はまさずとも。

二等　京都　露緒子

犧牲の身

うそ寒い夕風に、うすい髪を
はら〳〵なぶらせて、ゆく少女
十三、もの學ぶによい年頃を
あたら、犧の身、人の子守
卑しいといふ歌もうたう、
さもしいといふ事もする、
敎へてくれる人もない故。
夜があけた、唯他人の子の爲、
日が暮れた、唯他人の子のため
何がうれしい、ねたましい。

三等　東京　佐野くに子

都をあとに

花の香を袖にうつして
憧がれし三とせの春は
今日つきぬ、うれしかるべき
訣別なり如何で歎かむ。
さは云へど心淋しく
友の手に我手を添へて
心ゆくばかりに泣きぬ。
おぼろ夜を花なつかしみ
連れたちし過去は夢なり
思ひても友のなさけを
袖の上にせめて忍ばむ

秀逸

春宵　廣島　金原直子

何處の梅の香なるらん　薫るも消えそよ風に
また一しきりふる雨の　春ぞしづけきおぼろ宵

評　しめやなる春雨の宵かくもあるべきか

海邊春雨　横濱　鈴木松子

濱づたひ遊びつかれて　いそ山の花の木かげに
たちよれば降るともわかぬ　春雨はいとしめやかに
やわらかき濱のしぶきと　諸共に髮にふれけり。

評　黒髪の主、艶なり。

春の雪　東京　下關　こま子

佐保姫の霞の息に湿ひて、若葉ぞもゆる糸柳
冬の名殘の白姫が　たはむれに降る泡雪に
なかば埋れて見えにけり。彌生なかばの賤が庭。

評　勉めて倦まずんば堂に入るを得む。

わかれ　横濱　板倉かずえ

月あかり宵の燃りに　沈みゆく故里小野や
わかれゆくわが野のはては　嘆かひのしめらひ深き
森ならじ　相抱き涙にうるむ
この一夜とはにぬよらむ　胸ならじ

評　印象不明

朽葉　青森　竹林秋子

椎栗の雜木林や　鎭守の宮をかこみて
風に棆すれ合ふ音淋し　朽ちし葉を宮の後に
かき集め小高く積みて　火をつけぬ、ほの白煙り
徐ろにひろごり上る　朽ちし葉は腹部として
神秘にぞふれたる心地　又栗の燒ける香ひは
ほの白き煙と共に　わが鼻をまとかにめぐる
徐々に火はひろごりぬ　灰に化す朽葉のさだめ。

評　推敲を要す。

鍵　伊豫　中尾むつ子

快樂の扉は閉く鎖されぬ　惡魔のために、
あゝその鍵もさらはれぬ　弱き女の悲しさに
あせつてもあせつても　又開くべき由もなし
心もつかれ身も痛れて　はかなく市に人よびぬ。

評　同上

社告

文苑の面目を一新せん爲、五月號より締切を繰上る事とせり。左の如し。

和歌　春季雜詠　大口鯛二選評
俳句　春季雜詠　内藤鳴雪選評
短文　雜題　編輯局同人選
長詩　雜題　編輯局同人選

締切――四月十五日。　披露――五月五日。

用紙は葉書又は葉書と同じ大きさの厚紙に限り、氏名住所を明記のこと

以上

漫言

新體詩撰者

●今日は新體詩に入撰された諸姉の短評を一括して書いて見ませう。●神澤幸子氏　前號から初めて現はれた作者、前號の骸、本誌の春ゆく窓、共に深刻な悲哀を叙情的に詠んで居られます、悲哀の裡に燃ゆるやうな熱のこもつて居る處が、作者の生命であるやうです、美しい方です、筆蹟もあざやか。●露緒子氏　神澤氏も此作者も共に假の名で、本名は撰者の手許にだけ判つて居ります、此作者の著想は少し變つて居ります、今迄の傾向では、神澤氏の叙情に對して、此作者は何處までも叙事的で行くやうに思はれます。何不足のなかるべき、うら若い女性の、何處に此樣な超然的思想がひそんで居るのかと撰者は常に敬し且つ驚歎して居ります。●佐野くに子氏　いつも女らしい優しい作を寄せられる、淑かな思想、閑雅な筆蹟、これがこの作者の價値でせう。「都をあとに」これは事實を詠んだものと思ひます、學校を卒へた今後は、一層詩上で振はれる事と信じて居ます。

少女の操　これは有名な佛蘭西の作家ベルナルダン・サン・ピールと云ふ人の傑作『ポールとバージニア』と云ふ本を譯補した、稀代の面白い本であります此お話の舞臺は印度の曠野で、この曠野のうちに二軒の茅屋があり、此茅屋の花とも見るべき少年、少女の無邪氣な戀、この戀が終局には世にも珍らしい悲劇に終るところを、精練な、老巧な筆で寫したものであります。趣味は淸新、姿致は高雅平凡の中に奇趣あり單調の中に波瀾あるところ、多く得がたい書き振りで御座います。印度殖民地でモウリチアスといふ島にルイズとて可なり賑やかな港があつた、と云ふ發端から、私もこの哀れな話を聞いても幾度となく涙を拭いた、と云ふ結末迄一氣に讀まれます（四十錢、内外出版協會）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲講師　東京帝國大學早稲田大學日本女子大學各科諸教授　諸氏擔任
編輯　日本女子大學校　櫻楓會内通信教育會
▼四月新學期開始　目下入會之好時機

女子大學講義

規則書進呈

毎月二回講義録發行外に雑誌一冊進呈す　一ヶ月會費金五拾錢目下入會金免除
△本書は其講義極めて簡易明解にして實質的也女子大學家政科を標準として其修了期間僅かに二ヶ年而かも一ヶ月の都會遊學費を以て優に全科を修了し得
△本書購讀者には女子大學校入學金免除其他の特典あり至急に申込みあれ

▲辭典に非ず!!家庭家具絶大の珍品!!

家政寶典

實用家庭百科全書

定價金三圓六拾錢豫約特價二圓八拾錢總クロース金文字入美裝函入
製本出來五月廿五日特價期日切迫至急申込あれ
△本書は智識の寶庫家庭の顧問新式嫁入道具として善美の一大良書也
△本書は價格の低廉内容の豊富體裁優美説明の簡易にして實用的なるが特色也
△本書は豫約金僅に金參拾錢の振込みにて殘りは現品引替の新提供法を以てす

發行兼申込所　東京小石川區久堅町百〇八　精美堂　電話番町二八三二　振替口座九三八

花も愧ろふ清麗優美の婦人雑誌を御覧ぜよ

女學世界

四月一日發行　九巻第五號　正價廿錢　郵税二錢　前金税共十六冊三圓十二錢

◎今日の婦人に必要なる智識の程度（牧野男爵）
◎地位と資産とを目的とする婦人（安部磯雄）
◎破倫の父を持てる令嬢の深憂（百合子）
◎十年間の足袋一足で濟せし奥様（宮川すみ子）
◎學習院女子部評判記（河岡潮風）
◎卒業生への註文（青柳猛）
◎行儀見習中に見た伯爵家の三令嬢（若紫）
◎許らさる告白
◎各地風俗の變遷
◎肥えろ法瘦せろ法
◎女傑ジュアンダルク
▼女流歌人の近什（窪田空穂）
▼衣食住の大勢
▼人情科學（俊子）
▼其他材料豊滿

少女世界

四月一日發行　四巻第五號　正價十錢郵税一錢　前金郵税共一ヶ年分十六冊壹圓五十六錢

◎口繪彩色　散歩　彩色　お花見
▼少女唱歌　さくら（田山花袋）
▼八重一重（巖谷小波）
▼少女訓話　心の持ち樣（宮田脩）
▼花と少女と　名譽の少女　新學年につき諸孃に告ぐ
▼霰散る姫　泉斜汀
▼あはれ雛菊　みさを
▽札幌愛讀者　高知と愛讀者　▽阪神愛讀者　横須賀談話會
▼第八回諸孃筆蹟
▼住吉物語……海賀篤磨
▼少女美談……記者
▼銀貨入の編方……文子
▼ち梅やん……百合子
▼毛髪の手入……久子

東京市本町三丁目　博文館發行　郵便振替貯金口座四番二〇〇（賣捌全國各地書店）

岩佐病院

（電話浪花六九七番）日本橋區蠣殻町二丁目廿三番地

診察時間　自午前九時至正十二時

內科婦人科　院主　岩佐純
內科　院長　ドクトル　岩佐新
外科　醫學士　山村正雄
產科婦人科　醫學士　西村漸
腦病脊髓病　醫學博士　土田卯三郎

東洋內科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二（御茶水橋畔）
電本八八八（病院用）八九八（私宅用）
院長　醫學士　高田畊安
院長診察月水金木前松田醫學士診察火土前
窮者施診火木前入院診斷隨時應需松田林兩
副長は目下當院に在勤

南湖院

神奈川縣高座郡茅ヶ崎村濱（停車場所在）
河野副長は目下當院に在勤院長診察土曜日午後〇同時窮者施診副長診察月、火、水、木、金、土、午前

妻事薄毛にて種々藥を試しも効なく醫博士令夫人より寄藥を得薄毛も濃くなり生へざる所迄毛生し嬉さの餘り困る方に分與せしに三百有餘の禮狀を受け不思議のまゝ尚困難者へ告ぐ三錢郵券添御照會あれ……
東京々橋越前堀一ノ四　河村愛子

奥村五百子詳傳　全一冊

刊行以來僅々數ヶ月の間に、多大の部數を提供したる本書の内容は、既に世の定評あり、我が愛國婦人會の主唱者たる刀自の面目は、髣髴として本書の誌面に現出す、而して本書は刀自の傳記を詳かにすると同時に我愛國婦人會の過去及將來の方針を知らんとする者の燈明臺なり、須く諸氏の購讀を勸む。

殘部既に數百部に過ぎず、速かに申込まれざる時は、悔ゆとも及ばざる事を記臆せられよ。

△定價金五十錢郵税東京市内四錢他は八錢

申込所　愛國婦人發行所

內科專門　杏雲堂醫院

神田區駿河臺　電話本一六六九
院長醫學博士　佐々木政吉

及膚特効美白新劑

チプリ化粧液

小瓶三十グラム入　金貳拾五錢　送料四瓶迄八錢

◎本品は西暦千九百〇六年の發明にして常用せば肌を軟密にし自然白色艶麗の美顔たらしめ「ニキビ」「ハタケ」其他「顔ノアレ」等に最も奇効あり
◎効能顯著なる爲め印紙貼用せり化粧水にして貼用せるは本品を嚆矢とす
◎東京市内は勿論到る處の賣藥小間物化粧品店にあり品切れの節は送料八錢（四瓶迄）相添へ本舗へ御注文あれば直送す
東京日本橋區本石町　日本一手販賣　松澤常吉

內科一般　板垣亭

東京神田美土代町三丁目十七番地　午前宅診午後往診　電話本局貳千九百七十番

▲意匠嶄新破格廉價正札付▲

儀式用鼈甲 櫛 笄
象牙蒔繪 櫛 中差
金銀寶石入 簪 指輪
帶止ピン
珊瑚珠翡翠 玉 替
根掛
化粧品

格安土州珊瑚直取引市價よりは三割方廉價并に三拾錢均一物は御進物用として益好評御便利爲御持古るしの小間物引取交換仕候

東京市神田須田町（電話本局二〇七六番 振替口座二八一一番）
鼈甲小間物商　三井屋德次郎
京橋區新橋際　博品館内支店
神田裏神保町　東明館内支店

色白く艶をだす

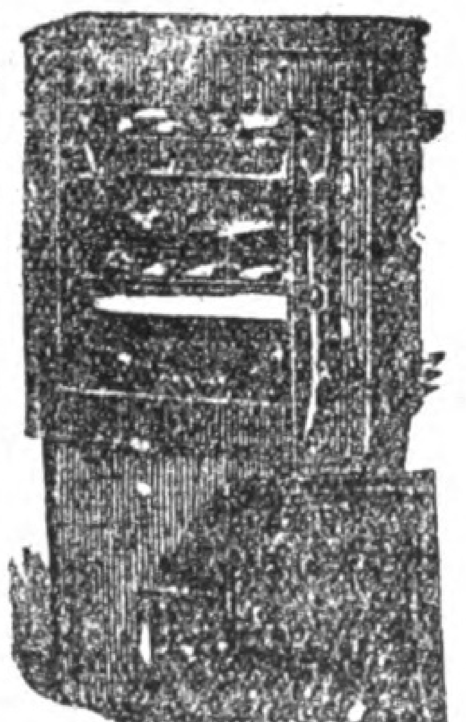
松澤ホーサン石鹸

（大形 廿錢　小形 十錢　新小角 十錢）

◎近來類似品あれば御買求の節は上部の商標に御注意を乞ふ○市內賣藥小間物化粧品店にあり

東京本石町四　松澤常吉

家庭の重寶　世界好評



專賣特許　名和式蒸燒器（一名テンピ）

在來のテンピと異り頂上に火を要せず焜爐の火力のみにて輕便迅速に和洋料理に最適當の器なり、
大器二圓七十錢　中器二圓廿錢　小器一圓七十錢
（說明書往復はがき）

到る處（金物店洋食器店）にあり

東京市日本橋區蠣殻町二の一五　名和商店　電話浪花二一七七　振替貯金一〇二五四

（注意）近來類似品を販賣する者あれば御買求の節は右瓶の形狀及び二頭の麝香獸に御注意を乞ふ市内賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候

麝香獸印

ムスク香水

（大瓶 壹圓　中瓶 六十五錢　小瓶 二十五錢）

●芳香の永く保つ點にて高評也

東京日本橋本石町四　松澤常吉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

宮内省御用達

最古醬油之元祖

上

開業貳百六拾五年

釀造元　下總銚子町　濱口合名會社
振替貯金口座五〇貳壹番

最上醬油

品質優等ニシテ調理ニ適ス

發賣元　日本橋區小網町三丁目廿七番地　濱口吉右衛門

釀造元　千葉縣銚子町　濱口吉兵衛

◎身長法の發明

◎如何なる矮小なる人にても如何なる老人にても身丈を延長し得

凡そ科學界の注意を惹きたる新發見も少からざる中に米國ニューヨーク州ロチエスター市のケー、レヲ、ミンジス氏が爲せし發見より大なる注意を惹きたるはあらざるべし。氏が矮小なる男女に於けるは猶ほ大發明者エヂソン氏が電氣に於けるが如くなるべし。氏は骨格、筋肉、腱肉等に就いて深く研究したる結果得たる智識は恐らくは現今の學者中比する者なかるべく、即ち此智識を以て、矮小なる人を延長せしむるに就き過去數年間獨特の技能を示し其收め得たる功果は驚くべき程なり。此術に依れば年齒五十以内の男女は二吋乃至五吋の身長を增し、又五十年以上の者と雖も多少身長を增すを得べし。氏の延身法は醫術大家の紹介に依つて今は著名なる學校にて生徒の體育法の一として採用するに至れり。身長を增さんと欲する者は此異常なる發見の成れる履史及び延身の秘術を示したる書を一讀すべし。

人體を革新すべき驚くべき發見

短小者の福音!!!

希望者へ此方法に依り二吋乃至五吋の身長を增し得たる數百の人よりの證言を無代價にて送るべし。此方法は迅速なる結果を現はし、多くは二ヶ月間に三吋を延し得、又此方法は最も衞生的に且つ無害的にして科學的原理を應用したれば決して不便を與ふる事なく、賣藥、醫藥等を要せざるは勿論又毫も手術の如きをも施す事なし。されば親友としても之れを應用しつゝある事を決して氣付かるゝ憂なく、尚本社は其上にも秘密を保たんが爲に總ての交通に白封筒を使用すれば他人に悟らるゝが如き事はあらざるべし。

本社は『延身の秘術』と題し、圖解を以て說明し、何人にも趣味と利益を與ふる書物を發行したり。此書は今回一萬部を限り、無代價を以て端書にて申込次第郵送すべし。

名宛　米國ニューヨーク州ロチエスター市　カーチレーヂ會社

本社は未だ日本に代表者なし通信は總て日本文にて本社へ直接申込れ度く名宛は可成く歐文にて記され度し

Cartilage Company, Dept. 121.
Rochester, N. Y., U. S. A.

水原產科婦人科病院
○神田猿樂町十二番地
○電話本局千八百九番
○院内ニ產婆學校アリ

○院長　ドクトル　木村順吉
婦人科產科　木村病院
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）

峰内科醫院
神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
院長　ドクトル　メヂチーネ　峰秀世

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂
電話下谷｛特九六五番　一二二四四番

めりんす友染
古渡り唐ざん
其外おもなや式格安物

赤のせん
おもなや本店
電話浪花四三四五

資本金千八百萬圓

東京京橋區木挽町
株式會社　十五銀行
電話新橋｛三〇〇番　一五三〇番　三一九三番

同日本橋區新乘物町
同　日本橋支店
電話浪花｛一九〇一番　三二七四番　三五〇八番

一定期預金　六ヶ月以上年五分
一當座預金　日步七厘以下
一特別當座預金　同　壹錢

◉婦人病專門
院長　櫻井克己
櫻井醫院
芝明舟町十九虎門外宮樣前
電話新橋三三三四

產科婦人科專門
岩田病院
淺草區左衞門河岸
電話下谷一〇二八
診察每日午前
入院隨時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

田舎の婦人にも東京の婦人にも無くてならぬ本誌也

婦人世界

四月一日發行 第四卷第四號

毎月一日發行 一冊拾五錢 郵稅一錢五厘 半年分增刊共一圓五錢 一年分二圓五錢 郵稅不要

◉模範とすべき覺悟ある婦人の經歷（殊に九州婦人に對する觀察） 村井弦齋

◉姑なき家に嫁入つたのは苦勞の種 露子

◉天幕の中に新婚旅行◎初めておゝ眼にかゝる記…

◉衣服を破つたとて子供を叱る母親の氣が知れぬ…田添

◉歷史講談 作左衛門の妻◉境遇の違つた家に嫁入りし實驗

◉家風を數へず女中を叱るべからず（子爵加納久宜）

◉獨逸大學に貧苦と戰ひつつ勉強せしめ人實歷

◉私が媒酌して圓滿なる結婚をさせし話…佐治實然

◎分娩時に必要な品物 榊醫學博士 ◎我が家の實驗

◉西洋音樂に最早く上達する法…安藤音樂教授

◎弦齋夫人料理談◎女店員の忙しき一日

◉父を助けて新聞配達しながら書家となりし實歷談

東京京橋南紺屋町十二（電話新橋八七四番）實業之日本社 郵便振替貯金口座三二六番 買捌全國各地書店

東洋一の商品陳列即賣館

第一 第二 帝國博品館

第一館 新橋角 電話新橋一六五二番 二三六一番 あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣す

第一第二館內各店共通商品切手發賣……御買上品は市內無賃で配達致します……

第二館 上野廣小路 電話下谷五三六番 三〇四四番 館內あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列即賣するの外左記特殊の設備あり

喫茶店。和洋料理。ミルクホール。汁粉。壽司。菓子果物店。美術室。盆栽盆景。理髮店。休憩所。上便所。洗面場。夜でも撮る寫眞場。

日本醬油

マツニホン　甘露　ウメニホン　壜詰　フジニホン

日本醬油釀造株式會社 出張所 京橋區本八丁堀（電話新橋 長三一一四番 四六六八番）

第一工場 東京深川小名木川通

第二工場 攝津尼ケ崎町

最上醬油 キハク印

於淡路島博覽會 名譽大賞牌受領

釀造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門

キハク印醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判てすどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七四

四月一日より十五日まで 寶さがし賣出し

一金參拾錢より五拾圓迄の商品引換券を赤帶封の商品に悉く封入いたし置き候間御運試めし旁々賑々敷御來駕被遊度奉希上候

大丸吳服店 日本橋區通旅籠町 電話浪花 八三三番 六〇五番 大六三番

商品切手調進仕候

甲斐絹屋

本店 神田區小川町 電話本局四八九 振替貯金口座一五〇〇〇

支店 京橋區銀座 電話新橋八三三

衣服洗淨及髮洗ひ

あらひ粉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◁四月號▷

新小說

口繪
和田英作　榊原蕉園筆
滿谷百四郎　本田穆堂
石版繪
歌舞伎……本鄉……市村座
新狂言……寫眞版

實價金二拾五錢（郵税二錢五厘）

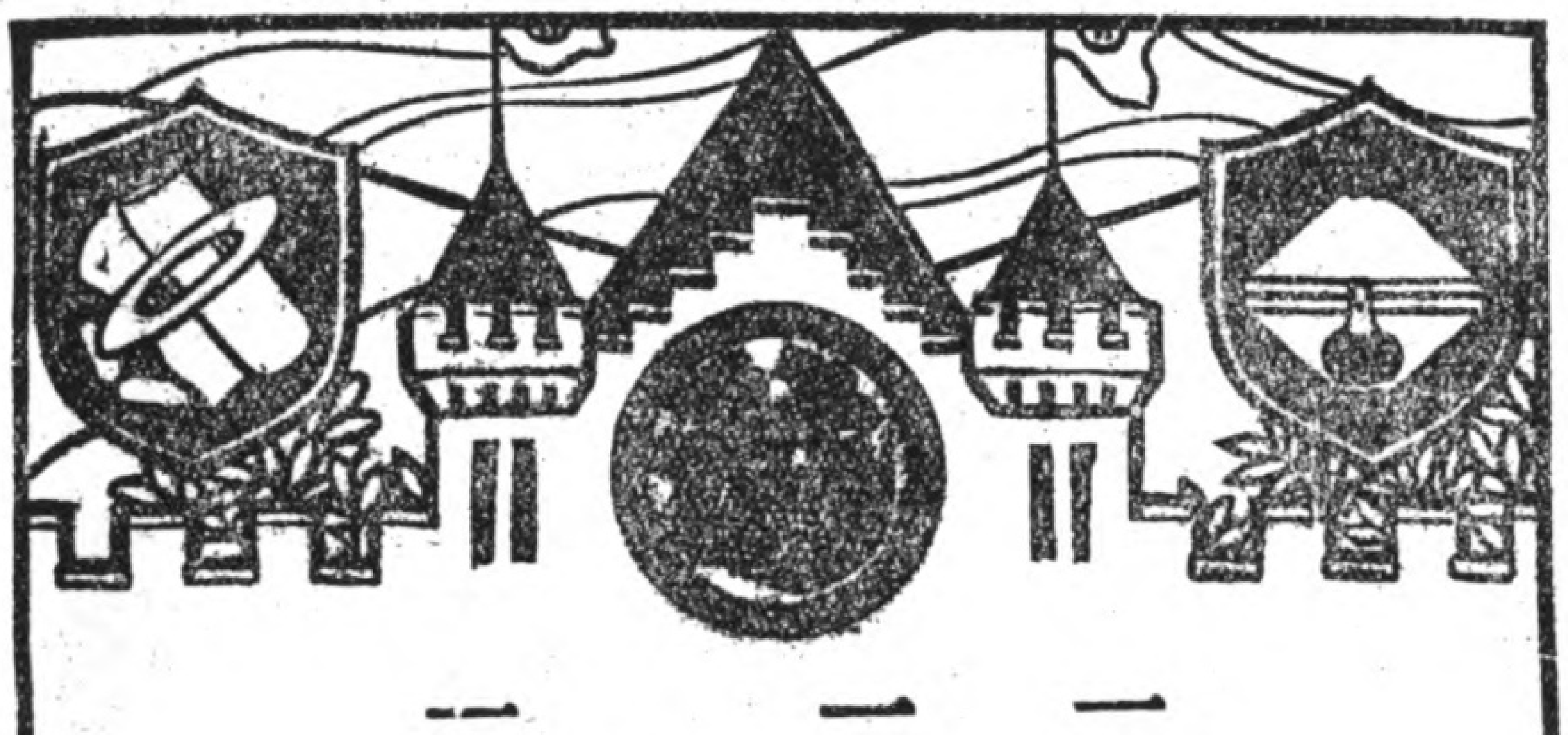
（小說）
後編 尾ケ紅　泉鏡花
月夜　上司小劒
鬼　薄田泣菫
マルバ　中村孤月

太平洋博覽會に就て……山田松濤
講談界の過去と將來……細川風谷
雷小僧を論ず……青柳有美
▲アート、ウキンス、バート吹と信仰　▲女性の法螺
▲蔽熱　▲女性の自惚心　▲女性の弱點
美術院の設立を望む……黑田清輝
文藝の保護に就て……平田禿水
音樂管見……島崎赤太郎
同糅錄……後藤宙外

ⅱ近代の道德說……上田敏
ⅱ見猫と文學……片山孤村
よ文明の批評……樋口龍峽
ⅱ文藝革新會起る……後藤宙外

（家庭）春さきの病氣　松迺露人
◉香道の初歩　御家流指南　都築我幸

發兌元　東京日本橋區通り四丁目　振替貯金東京一六一七番　春陽堂



四月一日より

一第十七回新柄陳列會
一懸賞課題光琳式明治模樣陳列

一寄せ裂れ見切り反物大賣出し
右弊店内に於て盛大に開會致候間御誘ひ合され賑々敷御遊覽被成下候樣奉願上候

一兒童博覽會
右三越呉服店内特設陳列場に於て開會致し大方の御縱覽に供し候

東京日本橋
三越呉服店

紳士、貴婦人洋裝
男女小供洋服　調製

嬰兒洋裝揃
小供服出來服　賣販

中野屋洋服店出張所
（東京神田鍛冶町廿七番地　電話本局二九〇一番）

最上等の中入綿は吹留眞綿に限る

衣裳中入
吹留眞綿

定價着物共男女羽織
七十錢九十錢
一圓十錢一圓卅錢

清潔に經濟に至便で暑工合よく普通眞綿の二倍以上の價値あり（專賣特許及實用新案併有）製造元麻布狸穴吹留眞製作所　三越呉服店。白木屋。松屋。大丸。伊藤松阪。高島屋。其他重なる呉服店にて販賣す

特約店
東京銀座四ノ十七　大和屋綿店　電話新橋一七七六番
東京芝西久保葺手町　さかいや　電話新橋一五四九番

◉藥品之純良◉

醫家處方調劑

醫師ノ處方ニ係ル調劑ハ必ズ調劑部主任之ヲ擔任シ親切丁寧綿密ニ且ツ迅速ニ調劑ス藥局トシテノ設備亦大ニ完全シ既ニ久シク大醫諸先生ノ信認ヲ辱ス藥品ハ試驗部ニ於テ嚴格ナル檢査ヲ施シ全ク純良品タルヲ確認シタル上之ヲ使用ス

神田區今川小路三丁目角
電話本局一五一八番
藥劑師　尾澤純良堂
藥劑師　大西橋三　藥局
藥劑師　長谷川田中義廣　贊

都足袋粹の友

◎都足袋ハ最ニ登錄商標ヲ得タル都人士女ノ理想品なり
◎都足袋ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人粹士ノ歡迎ヲ受ケツ、アリ
◎都足袋ハ踵ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フコナシ
◎都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ具合選良ニシテ縫目ノ破綻スル處ナシ
◎都足袋ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上尠ナカラサル効力ヲ有セリ

白紺 羽二重足袋

◎羽二重足袋は外觀内容共に美麗にして一般社交界の好評を蒙れり
◎羽二重足袋は御婚禮其他御儀式履きに缺くべからざる必要品なり
◎羽二重足袋は衣裳の裾を傷めざるは勿論裾捌最もよろし

地方の御注文は代金引替小包又は振替貯金口座へ御拂込被下候へば通信料も爲替料も一厘も入りません其時には「必ず口座番號（東京一二三四六番）」を御忘れなく御記入下さい又拾足以上の御注文は運送費を自店でもちます

東京日本橋區室町三丁目
龜屋　宮內清兵衞
電話本局一七一二番
振替口座東京一二三四六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御扇子

愛國婦人會御用達

京都寺町五條下ル東側

御影堂　持阿彌

院長 醫學博士 榊順次郎（婦人科産科毎日午前診察）

副 醫學士 久保德太郎（婦人科的外科外國留學中）

副 醫學士 田代謹二（婦人生殖器病診察及内科一般火木土午後診察）

●施診火木土午後一時至二時

婦人科產科榊病院

麹町三番町三三（電話番町三九五）

小兒科專門

腺病體質（瘰癧症）

小兒胃腸障害（脾疳）

腹膜炎（脹滿）

小兒皮膚病

ドクトル メヂチーネ　長井岩雄

東京日本橋數寄屋町（呉服橋外）電本百八十

登録商標

外毒豫防ゴム製

婦人衛生必携器

さよごろも

更夜衣

定價甲種一個金壹圓同貳個入壹圓七拾錢
乙種一個金七拾五錢同貳個入壹圓參拾錢

さよごろもゴム製にて嶄新の發明御婦人方の衛生上必ず携ふべき要用の良品なりさよごろもを用ふるときはいかなる場合といへども痳毒瘡毒下疳等の傳染することなく又子宮を疵傷する患なしさよごろもは懷妊を望む御婦人は用ゆべからずこれを用ふるときは懷妊せざればなりさよごろもは月經の際經水の漏洩を防ぎ立居を便ならしむさよごろもの使用は本品を添て委細傳授すべし

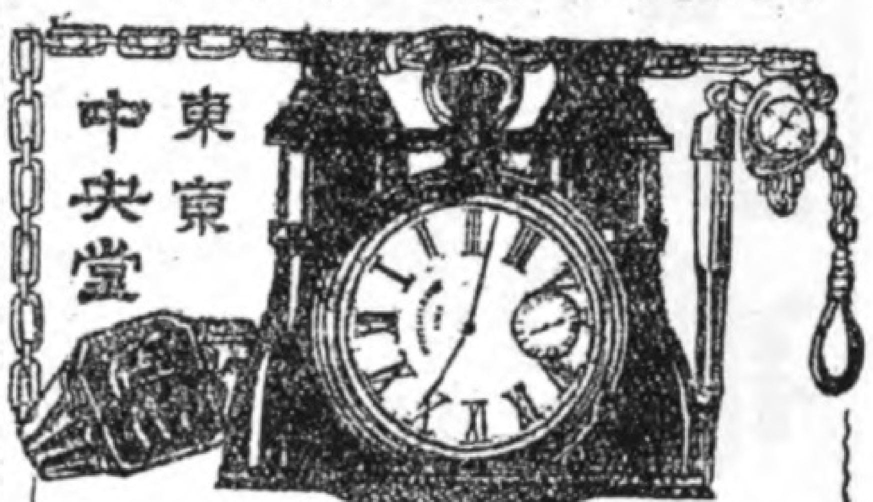
○さよごろも入用の御人は御注文次第東京市内は無逓送料にて御届申上候其他地方は郵送料一個に付十錢にて何國何處を問はず御郵送申上候

東京市兩國米澤町二丁目一番角　吉田安五郎

振替二三〇六　電話浪花千百三十八番

月やくはらひ通經丸本舗 さよごろも發賣所萬珠堂藥舖

新築紀念大賣出し



市區改正の爲新築中の處今般落成致候に付き

四月一日より

大賣出し

美景贈呈仕候

紀念の爲大賣出仕り永年の御厚志に酬可申候

貴金屬寶石美術品商

東京市日本橋通一丁目

中央堂時計店

電話本局二九五四番……白木屋北隣

四月一日より

染織競技會開催

一 新案歌舞伎模樣
古人名優の着用したる衣裳と之れを圖案應用したる新製品種々陳列致候

一 懸賞八千代黑染
豫て募集中の八千代黑染懸賞締切は四月卅日當撰發表は五月十五日に候

一 新輸入の毛織物
當期節向仕立洋服外套被布及縞セル縞子ル等新柄約定品は悉く到着仕候

一 寄裂見切反物大賣出し

東京市　日本橋

白木屋呉服洋服店

春季節草花蝶

御半ゑり帶揚

時機の粹新奇拔大模樣姿勢よき刺繍鳥毛縫絞り等渾て優美高尚雅致と生粹にして緻密品廉價に調製取揃へあり

季節シヨール　長襦袢　襦袢袖　羽織肩裏　帛紗　博多伊達まき　ネクタイ　前掛　帶片側

新橋竹川町二十二番地　電話新二〇二七　本店ゑり治

振替貯金口座番號四四〇壹番

神田表神保町壹番地　電話本局九五二　支店ゑり治

●季向行ゑ●京の絞●髪け友柒く●
●節流半り西鹿子り御か●仙ふさ●

●正札附●●廉價販賣仕り候●

半ゑりは[illegible]に限る

本店　神田表神保町壹番　電話本局二八五三

出店　新橋博品館階上

小兒御守巾着●及よだれかけ類

●帶腰金附止●入入セ袋類御織頭●
●上帶具帶類紙箱箱コ物●羽紐巾●

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
神田三河町 博報堂
京橋宗十郎町 正路喜社
日本橋蛎殻町 春風舍
京橋南紺屋町 一星社
神田須田町 金蘭社
本郷區湯島 弘進社

斯く迄厚き信用と多大の讚辭とを以て社會の上下に歡迎せらるゝ花王石鹼

帝國醫科大學、帝國陸海軍は常に花王石鹼を使用せらる而して是れ等は其都度最も嚴密なる化學的の試驗の結果採用せらるゝものなるが故に需用者諸君は確實なる指導者を得て是れに信賴し製造者は是れに勵まされて益々品質の改善進歩に務め以て拾數年來深厚不易の信用を得て內地は勿論海外に迄も盛に歡迎せられ

安心して買へる石鹼

花王石鹼は「良くて安くて德用な石鹼」との高評は今や到る處の家庭に喧傳せられつゝあり

東京馬喰町二丁目 長電話浪花 三千二番 三番
花王石鹼本舖 長瀨富郎
大阪安土町四丁目 長電話 東 五一番 三七七二番
關西代理店 大崎組商會

ライオン 齒磨

獅子の齒は淸らかにして强し

百獸の王たるライオンの齒牙は其堅牢なること鍛鐵の如く淸らかなること宛然白玉に似たり

齒牙をして鍛鐵の如く强健に而も白玉の美光を發せしめ口中を淸くし心身に快感を與ふる者唯一のライオン齒磨を用ゆるに在り

發賣元 東京 大阪 小林富次郎

四月一日より 春衣大賣出し仕候

よせきれ見切反物澤山取揃日々差換置申候

特賣品部開設仕候

今回は實用正紺東京がすり壹萬反を限り一反金壹圓六拾五錢の破格低價に販賣いたし且餘興として左の景品相添へ申候
壹等(朱珍丸帶)より五等(縞風呂敷)迄壹萬點餘興景品相添申候

神田今川橋 松屋呉服店

東京市麴町區錢瓶町(常盤橋內)
日本興業銀行
電話本局 一、二八〇番 三、三〇〇番 四一〇番 三七一番 (特)一〇二二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目
一 擔保附社債に關する信託業務
一 有價證券其他貴重品等の保護預
一 有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一 地方債、社債、株式等の發行募集事務
一 各種の信託事務
一 國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一 國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一 法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一 定期預金、特別當座預金

明治四十二年四月五日發行(每月五日廿日二回)(定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵稅不要)(廣告料一行金六拾錢) 發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 永持德一 發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人發行所 發賣所 同 京橋區南鍋町 株式會社隆文館 印刷所 東京市牛込區榎町 日清印刷株式會社

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會記事

韓國皇帝陛下御下賜金

韓國皇帝陛下韓國南西地方御巡幸に際し會務擴張奬勵の思召を以て左記委員部に對し金貳百圓宛御下賜相成たる旨去三月四日韓國本部より報告ありたり

左記

釜山委員部　馬山委員部
大邱委員部　平壤委員部
新義州委員部

幼兒敎養所

愛國婦人會幼兒敎養所に於ては先頭全國の戰死者準戰死者傷者等の遺兒及子弟中に就き年齡滿十四年以下滿十年以上の者にして將來陸海軍幹部たらんと希望せる者一百名を收容し悉皆本會の費用を以て之を養成するの部署成り愛國婦人會々計監督佐藤正氏を敎養所々長に大原武慶氏を寮長に囑託し其訓育に當らしむること岩倉愛國婦人會々長に依りて定められたるが其後當局者間に於ける詮衡の結果本年度に於て五十名を、更に明年度五十名を採用することに決定、本年各地愛國婦人會支部より撰出せる百二十三名の應募者に就き採否せし狀況略ぼ左の如し

▲應募者と採用者

北海道十一名の内四名、京都十一名の内三名、兵庫三名の内一名、長崎二名の内一名、新潟四名の内三名、群馬四名の内二名、茨城三名の内一名、栃木三名の内一名、奈良二名の内一名、三重五名の内二名、愛知九名の内四名、靜岡二名共、福島四名の内三名、石川四名の内二名、富山六名の内二名、鳥取八名の内四名、廣島三名の内一名、香川四名の内三名、愛媛六名の内三名、福岡五名の内三名、鹿兒島二名共、函館四名の内二名採用せられ、東京の四名、熊本の三名、高知の二名、埼玉、山梨、滋賀、岩手、秋田、島根、山口、和歌山の各一名及び前記各支部の殘餘は不採用となれり

▲採用者の敎育と年齡

採用者五十名に就き敎育程度に依り類別すれば左の如し

高等二年生となるべき者七名
同　一年生となるべき者十四名
尋常六年生となるべき者十一名
同　五年生となるべき者十三名
同　四年生となるべき者五名

又之を年齡に依り區別する時は左の如し

十三年以上十四名△十二年以上十一名
十一年以上十六名△十一年以上九名

▲幼兒收容の情況

收容すべき幼兒は去月二十日各支部派遣員に引率せられて各地より着京せしが當時本會構內に新築中の敎養所工事全く落成せざりしを以て翌二十一日午前九時芝靑松寺に於て大原寮長之を受領、一齊に新に理髮、且入浴せしむると同時に新調の衣服袴を着せしめ所要の身體檢査を行ひたる後佐藤所長は寺內大廣間に幼兒を集め「うそいふな」「中よくせ」の二ヶ條に基き懇々訓諭する所あり同時に又た支部より派遣せられし各事務員に對し厚く慰勞の辭を述ぶると共に各事務員諸氏各地に歸鄕の後は本塾に幼兒を託されし各支部長並に各父兄に對し敎養所に於ては收容兒童の衛生並に品性及知育に就き誠心誠意を以て我れ等事に當るべきを以て各支部長各父兄等に安心して幼兒を託し置かれ度き旨呉々も傳言ありたき旨依賴する處あり右終て後各支部事務員諸氏は本塾事務員に各幼兒を托して各自退散せるが、幼兒等は舍監事務員等引率增上寺境內を散步の後寢に就かしめたり

▲幼兒と假收容所

附けて云ふ本會構內に新築中なる敎養所工事は豫定の如く殆んど落成に近かりしも、天候の惡かりし爲め壁の干上り其他不充分の處あるべきを慮り、當局者は初めより一時好位地の寺院に收容せん事を計畫し居りしに偶々本鄕吉祥寺なる大道社職員及麻布法音寺住職樣大仙師並に芝靑松寺住職の好意に依り一時靑松寺に收容することゝなれりと云ふ、又收容の幼兒は悉く所定の小學校に入學せしむることゝなるが收容の日より入學の日迄約十日間に於ては當局者が依て以て兒童に十分の慰安を與ふる爲め日々有益にして兒童の注意を惹くに足るものを見せしめ一面には望鄕想家の憂愁を減せしめ五十人中に新しき親友、新しき家庭を造らしめ、又一面に於ては徐々各生徒の足並を等しうするの基礎を養成せんと計りつゝありと云ふ。因に同寺に於ては舍監森哲三氏及他事務員等幼兒と寢食を共にして敎養のことに當りつゝありとぞ

▲幼兒上京と各支部

今回本會に於て幼兒敎養所を設けしに就きては收容兒童の選拔等に就き各支部共十分盡力せられ且つ採用兒童入學上京に際しては各支部長、評議員幹事顧問相談役等の中幼兒の爲め告別の會を開くものあり、幼兒に金品を贈れるものあり、停車場に見送れるものあり、各支部に於て孰れも頗る熱誠を盡されしことなるが今其情況の一般を一二支部に就き記者の聞及べるもの若しくは報告ありしがまゝを爰に記さんに

△福島支部に於ては去月十九日午後一時より同支部樓上に於て告別會を開き西澤支部長を始め評議員幹事顧問相談役等四十餘名列席敎養生福島市富永順太郎以下三名に對し支部長には懇切なる訓示的告別の辭を述べられ終つて茶菓の饗應ありしと△栃木支部に於ても幹事等集合送別茶話會を開き支部長初め支部役員等停車場まで見送られ紀念撮映の後花々しく出發せりと△殊に愛媛支部に於けるが如き、收容されし幼兒家族のもの涙を零して其丁重なる送別と幼兒の上京とを喜べりと

以上茲に記せるは眞の一二支部に過ぎざるが各支部共に同樣の熱心と同樣なる丁重の度合を以て見送られし由を特に此處に附記し置く

總會彙報

本會第八回總會は既記の如く本月午前十時より日比谷公園に於て擧行す、入場者は會員章佩用の上、當日開會前に參集せられたく、なほ次の事項を注意せらるべし。

一、公園入口は幸門、西幸門、霞門、櫻田門よりの事
一、開會閉會は振鈴を以て報す
一、會場內には本(本部職員)整(會場整理係)接(接待係)茶(茶菓係)等の文字ある櫻形の徽章を胸間に佩せる職員あり、御不案內の事は此等に御質問ありたし
一、雨天の際は雨具御用意のこと、
一、御携帶品は各自御保管のこと、馬車人力車置場は會場入口外に設けあり
一、成るべく乳兒は御同伴無きを可とす
一、汽車汽船は往復に限り二割引、北海道炭礦汽船は三割引をなす。
一、佩有功章者及職員に對しては六日午前九時より午後三時迄、濱離宮、新宿御苑、後樂園の拜觀を差許さる。但後樂園は六日七日の兩日午前八時より午後四時迄とす、
一、一般參會者には、遊就館、博物館、動物園、花屋敷、水族館、發明品博覽會等の入場半額割引券を交付す、

其他總會の模樣は細大共に之を次號誌上に掲載すべし、

△長崎支部▽

□對馬幹事部　去三月九日午前十一時より第二回總會を嚴原町金石館に於て擧行せり、同幹事部は交通不便の離島にして本會の旨趣のある所を知らしむるに稍困難を感ずるにも係らず、原田幹事部長其他幹事の盡力斡旋の結果日に月に會員增加し、會員千餘名を糾合するに至れり、當日は雨天にも拘らず、支部よりは支部長代理として、松永參與足達事務員臨席來賓は對島警備隊司令官小原少將各將校阿部對島中學校長嚴原裁判所高等官長里對島日々新聞主幹、縣町會議員、島廳官吏等百餘名、會員及遺族廢兵等四百餘名に達し、定刻となるや第一號鐘と共に各設けの席につき、開會君が代の吹奏ありて原田幹事部長開會の辭を述べ、顧問皇后陛下令旨、總裁殿下諭旨、戊申詔書捧讀、幹事鳥居タキ子、事務報告、支部長祝辭、幹事部長答辭、來賓祝辭演說終て松永支部長代理は、現今婦人の位置と責務に就て、熱誠に一場の口演を試み、大に感動を與へたり

次で支部長代理は井上くま子、鳥居たき子に有功章を授與し、茲に閉會を告げ來賓及會員一同には立食の饗應ありて紀念品を贈り、せんざい、そば、茶等の模擬店を設け、餘興としては同地東洋館藝妓の舞踊、原靜子の能樂等にして大に喝采を博し、一同歡を盡して散會せしは午後五時、近來稀に見る盛會なりき。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本部近況

□評議員會　去三月廿四日開催の豫定なりしが、都合により延期、同廿九日午後一時より本部會議室に於て開催、幼兒教養所へ擊劍及柔道場廊下共新築の件を議し、同四時閉會せり、因に本月の評議員會は來廿八日(第四水曜日)午後開催す

□理事顧問會　去三月廿七日午後二時開催、總會に關する事項及會務に關する左の要項に就て議し午后四時閉會せり

(一)四十一年度に於ける會計決算の件

(二)幼兒教養所に關する名稱其他實況報告

(三)臨時擴張に關する實況報告

□幹事相談會　去三月二十九日午後二時より、東京支部幹事にして、總會に斡旋せらるゝ諸氏相會し、種々の打合せをなし四時閉會せり。

支部近況

▽佐賀支部△

□小城郡幹事部　牛澤町委員部に於ては去三月七日午后二時第一回總會を同町尋常高等小學校内に開きたり、同町の會員總數は二百二十五名女子人口に對する百分比例は九人余にして支部内各町村の第三位を占むるの盛況を呈せり、當日の參會者數は百七八十名に及び、支部よりは支部長代理、副長仁保しま子、評議員松尾要子、神崎山子、主事藤澤喜士太、事務員山村知次、小城郡幹事部よりは顧問萩原郡長、部長萩原くに子、事務員三上新、伊東千三の諸氏參列次の順序を以て開會せり、一牛澤町委員副島武熊氏開會の辭を述べ、次に同町委員(助役)伊東熊三郎氏、會務の報告をなし次に支部長の祝詞(仁保副長代讀)次に萩原顧問の祝詞次に藤澤主事、支部に於る會務の狀況を報告し、併て將來の希望を述べ、次て同町委員(町長)久本泰三郎氏答辭を朗讀し、閉式直に余興に移り、終て會員一同には同町の豪商山中丸呉服商店の寄附に關る印入のハンカチーフ並菓子を配付し支部及幹事部其他の來賓には田町女子補習學校生徒の調理に成る立食の饗應あり尙當日案内に依り、參列したる遺族四名に對し　總裁殿下御染筆なる「花を見て」の額面複寫壹枚づゝを寄附し散會したるは午后五時頃なり。

▽宮崎支部△

□南那珂郡幹事部　第一回總會を三月四日午前十一時より飫肥尋常高等小學校運動場に於て開會、正午閉會せり。式場は同運動場中央に藁葺の屋根を設け、杉葉を以て壁を作り、柱はだんだら捲として前面に幔幕を繞らし、正面に總裁殿下の御影を奉掲し、最も壯嚴に裝飾せられたり、支部よりは支部長代理として評議員三橋小刀自顧問高岡直吉主事成合德次及事務員一名出張臨場したり、式の順序は

第一號砲にて一般會場へ參集
第二號砲にて支部長代理外來賓幹事部長の案内にて臨場
幹事部長代理開會の挨拶
幹事部長代理　總裁殿下の御肖像開扉
君が代の唱歌
幹事部長代理御令旨奉讀
事務報告
支部長告辭
幹事部長代理答辭
幹事總代祝辭
癈兵遺族へ菓子料贈與
支部顧問慰籍
御肖像閉扉
一同退散
第三號砲にて一般來會者に折詰を頒つ
一、出會したる來賓及會員約五百名
一、同上癈兵遺族百七名

右參列したる癈兵遺族に對しては菓子料として一人に付金一圓宛支部救護資金の内より支部長の贈與狀を添へて贈與したり。

▽富山支部△

評議員會へ報告事項
一四十一年事業報告
一四十一年度決算報告
一四十二年度收支豫算
一支部救護金蓄積規定報告
一支部給與規則及賞與内規設定報告

仝會協議事項
一本年度に於て新募を要すへき會員數(事業報告第表の通に付)其增募方法如何

右に對して左の通り決議す
(1)本會より遊說員派遣方申請のこと
(2)支部遊說員を一層活動せしむること
(3)幹事部又は各分區に於て每年一回會員總會を開くを本體とし先本年第一着手として會員數の最少なき中新川、東西礪波の各幹事部内の町たる分區より開催せしむることに勸誘すること
但本文總會開催の場合に於て經費を要するときは支部に於て應分の補助を與ふること
(4)幹事部又は分區に於て總會開催の場合は其區忠死軍人の追悼法會を開き又は遺族癈兵者に慰安を與ふる方法を講せしむること
(5)前二項は各幹事部長より分區に對し此際通知せしむること
以上午前

午後一時開會評議員幹事兩會合同に先たち支部顧問の
一戊申詔書の奉讀あり次に支部長より左の報告並に協議せらる
一富山授產場事業成績報告
一仝四十一年度
一本年本會第八回總會開催報告
一本部に於て孤兒教養の愛國義塾設立並に支部より同塾に收容の孤兒二人近日出發の件

幹事へ報告事項
一四十一年度事業報告
一仝年度富山市幹事部收支決算報告

幹事協議事項
一富山市會員增募方法如何

左の通決議す
右は評議員會同方法の(1)より(5)に至る趣旨に依り市内各所に於て會旨普及演說會を開くこと並に來月に於て幹事部會員總會を開き同時に追悼會を併せて營むこと

(以下次號)

足袋割引期限廣告

當場製造足袋二十足以上御注文に對し臨時割引を以て販賣致候に付去る一月廿九日往復端書を以て御購求方御願申置候處割引期限は四月三十日限りに有之候間期限内に陸續御注文あらんことを希望仕候

愛國婦人會
東京支部授產場

愛國婦人會々員女子人口比較表
明治四十二年二月末日現在

支部名	特別會員 終身	特別會員 年賦	特別會員 計	通常會員 終身	通常會員 年賦	通常會員 計	合計	卅六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員比例	贊助員
山口	三〇五	九三三	一、二三八	一、一二四	二七、二五七	二八、三八一	二九、六一九	五〇六、九二〇	五、八四	五三
石川	五三七	一、四六〇	一、九九七	四二〇	一九、六八六	二〇、一〇六	二二、一〇三	三八五、四七八	五、七三	六六
山形	一七一	八二四	九九五	六三八	二一、〇七八	二一、七一六	二二、七一一	四三九、六一八	五、一七	一〇三
廣島	五一二	二、〇三二	二、五四四	一、一二八	三〇、八五八	三一、九八六	三四、五三〇	七四六、六五五	四、六二	一五
愛知	四九二	一、一一一	一、六〇三	一、九七二	三三、九五〇	三五、九二二	三七、五二五	八六八、五三八	四、三二	一四〇
福岡	三一八	二、三七五	二、六九三	七四一	二九、九四〇	三〇、六八一	三三、三七四	七七二、七四三	四、三二	四
岡山	二三〇	八八四	一、一一四	四四七	二二、六六六	二三、一一三	二四、二二七	五七七、二七二	四、二〇	一五
兵庫	五五九	一、七〇三	二、二六二	一、三六七	三三、一九一	三四、五五八	三六、八二〇	八九三、七三四	四、一二	一七
京都	四六五	二、〇六〇	二、五二五	五九〇	一七、六七六	一八、二六六	二〇、七九一	五二〇、三九五	四、〇〇	二一
島根	一一〇	三五一	四六一	三五六	一三、六九〇	一四、〇四六	一四、五〇七	三六二、六三五	四、〇〇	一
神奈川	四〇八	一、三四一	一、七四九	七五六	一七、一五〇	一七、九〇六	一九、六五五	四九九、六二三	三、九三	七三
愛媛	一〇〇	四七〇	五七〇	三四七	一九、一二九	一九、四七六	二〇、〇四六	五一一、三九六	三、九二	四九
富山	一三三	九三五	一、〇六八	二一〇	一三、三三九	一三、五四九	一四、六一七	三八四、九八二	三、八〇	五二
北海道及函館	三九五	二、九三四	三、三二九	四九三	二五、〇六六	二五、五五九	二八、八八八	五〇七、六二八	三、七二	五七
香川	二一六	五九九	八一五	五三一	一一、四〇七	一一、九三八	一二、七五三	三四七、八九〇	三、六七	—
熊本	二八五	二、六四七	二、九三二	四六〇	一八、七四四	一九、二〇四	二二、一三六	六一〇、四一一	三、六三	三
宮崎	八六	三三七	四二三	一七一	八、〇八四	八、二五五	八、六七八	二四七、二五二	三、五一	二
青森	二二二	一、一六〇	一、三八二	四一八	九、四五〇	九、八六八	一一、二五〇	三二二、二一一	三、四九	九
秋田	二六八	六四〇	九〇八	五七二	一二、二六九	一二、八四一	一三、七四九	四〇三、九四六	三、四〇	三
群馬	二二二	一、三四〇	一、五六二	一九八	一三、二六一	一三、四五九	一五、〇二一	四五四、一七一	三、三一	三
長崎	一、二六六	二、三二六	三、五九二	一、一二七	一〇、七一〇	一一、八三七	一五、四二九	四八九、三五〇	三、一五	三
靜岡	一三五	六三四	七六九	九七〇	一八、六九二	一九、六六二	二〇、四三一	六四〇、八四八	三、一九	三
佐賀	一三四	七八三	九一七	一五六	八、八四三	八、九九九	九、九一六	三二七、六七八	三、〇三	二
栃木	一九八	七四三	九四一	四三三	一一、五一三	一一、九四六	一二、八八七	四五〇、一二六	二、八六	八
福井	一四三	六九九	八四二	三一八	七、八八四	八、二〇二	九、〇〇四	三二〇、一五四	二、八一	一〇
大分	一二四	七二五	八四九	二七七	一〇、七六二	一一、〇三九	一一、八八八	四三〇、〇二五	二、七六	三
宮城	一九五	一、二七二	一、四六七	二〇五	一〇、二八九	一〇、四九四	一一、九六一	四四五、〇四七	二、六九	二
三重	一二七	三一〇	四三七	五四一	一二、八五一	一三、三九二	一三、八二九	五二二、〇〇三	二、六五	六六
長野	一八五	一、一三九	一、三二四	八五七	一五、五三五	一六、三九二	一七、七一六	六七四、七〇一	二、六三	三五
鳥取	五三	二三六	二八九	一三三	五、三〇八	五、四四一	五、七三〇	二一七、一四一	二、六三	三
東京	一、四二九	七、八三一	九、二六〇	一、一二〇	一七、九五一	一九、〇七一	二八、三三一	一、一五七、五一四	二、四五	七二
岩手	八八	五八七	六七五	二四四	八、一三一	八、三七五	九、〇五〇	三六九、二七八	二、四五	一
大阪	六三八	二、七八二	三、四二〇	八四七	一六、二〇四	一七、〇五一	二〇、四七一	八六三、〇四六	二、三七	三六
奈良	三六	二五三	二八九	一三九	六、〇四三	六、一八二	六、四七一	二七八、一九一	二、三三	—
德島	八二	二八五	三六七	四二二	七、三六三	七、七八五	八、一五二	三五二、六〇八	二、三一	六
福島	二七九	一、〇七九	一、三五八	七三九	一一、三二七	一二、〇六六	一三、四二四	五八二、一五六	二、三一	一
[illegible]潟	九二九	九四四	一、八七三	七、六八〇	一九、一三二	二六、八一二	二八、六八五	一、四〇二、七一一	二、〇四	—
高知	三七	二一三	二五〇	二四二	五、七五三	五、九九五	六、二四五	三一八、二四五	一、九六	—
千葉	一七五	八三五	一、〇一〇	五一一	一一、三二八	一一、八三九	一二、八四九	六五六、七八二	一、九六	二九
滋賀	一二三	三三七	四六〇	五一七	五、五八八	六、一〇五	六、五六五	三六四、六八八	一、八〇	—
鹿兒島	一四四	一、〇九七	一、二四一	一九二	八、九三六	九、一二八	一〇、三六九	五九四、九八五	一、七四	八
茨城	六四	四五八	五二二	二六一	九、四〇二	九、六六三	一〇、一八五	六〇〇、四一三	一、七〇	一
山梨	五九	三三八	三九七	一八五	三、八一九	四、〇〇四	四、四〇一	二七二、一四八	一、六二	—
新潟	三三〇	八八〇	一、二一〇	七九〇	一二、五六三	一三、三五三	一四、五六三	八九九、〇二一	一、六二	三七
埼玉	八三	二九六	三七九	四四五	九、二九九	九、七四四	一〇、一二三	六二七、五五六	一、六一	三八
和歌山	六四	二七四	三三八	二〇六	四、一九四	四、四〇〇	四、七三八	三五〇、〇六九	一、三五	一
岐阜	一一四	六九二	八〇六	二五二	四、七八七	五、〇三九	五、八四五	五二〇、六五八	一、一二	一
沖縄	四五	三一八	三六三	四四	一、七七五	一、八一九	二、一八二	二三九、五二七	〇、九一	—
韓國	—	一、二一二	一、二一二	—	一、九八六	一、九八六	三、一九八	—	—	三八九
海外	八六五	五六	九二一	四〇六	二八	四三四	一、三五五	—	—	一〇二
計	一四、一七八	五五、七七〇	六九、九四八	三三、一九八	六六五、八八七	六九九、〇八五	七六九、〇三三	二五、三一三、〇四〇	三、〇四	一、七〇二

備考
(一)支部の配列は會員比例數の最も多きものより順次配列す
(二)北海道函館の兩支部會員數は合算して掲載せり而して函館支部會員數は特別五百三十五人(終身七十八人年賦四百六十五人)通常千八百三十八人(終身八十一人年賦千七百五十七人)にして他は北海道支部會員數なり
(三)韓國支部の報告は終身會員年賦會費の區別なきに付假に年賦會員の欄に掲載せり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第八回總會式次第書

第一鈴
一、諸員式場へ整列
第二鈴
二、總裁殿下御台臨（君ケ代吹奏一同最敬禮）
三、會長開會の辭
四、總裁殿下御諭旨（一同最敬禮）
五、會長奉答
六、總裁殿下 有功章御親授
七、事務長會務並に會計報告（書類代用）
八、會長閉會の辭
九、總裁殿下御退場（君ケ代吹奏一同最敬禮）
第三鈴
十、諸員退場

明治四十一年度愛國婦人會
事務成績報告書

本會の主旨たる遺族廢兵の救護は前年に引續き其實施は着實に行はれありと雖ども尙進んで其家族の幼兒を集め救養せんことを計畫中にて明治四十二年度に於て之を實施せんとす今や四十一年度事務成績報告を爲すに當り簡單に其要を各項に區別し報告する事左の如し

○總會　本會第七回總會　五月廿三日東京青山練兵場に於て開く
皇后陛下行啓あらせられて左の御諭旨を賜ふ
本日愛國婦人會第七回會員總會に臨み各員を見るを喜ぶ將來益本會の盛ならんことを望む
總裁殿下の奉答左の如し
玆に愛國婦人會第七回總會を開くに方り畏くも
皇后陛下の親臨を仰ぎ優渥なる令旨を拜し何の光榮か之れに加へん伏て惟るに
陛下夙に本會事業に庇護をたまはり洵に感激の至りに堪へす智惠子全國會員と共に益盡瘁して救護事業の完成に努め以て至仁至慈なる
陛下の懿旨に副ひ奉らんことを期す謹て奉答す
名譽會員伏見若宮、久邇宮、梨本宮、東伏見宮各妃殿下御台臨あり參列者總數約貳萬有餘人內東京支部に屬する廢兵遺族千七百五十三人にして天氣晴朗最も靜肅に終了せり

○支部總會　本年度中總會を開催したる支部は左の如し
但各支部共總會に對し御諭旨を賜はりたり
群馬支部第二回總會　四月二日
總裁殿下御台臨出席者約三千人內遺族廢兵九百九拾四人
京都支部第七回總會　四月十九日
會長代理として評議員岩倉槙子氏出張出席者約四千人內遺族廢兵約五百人
長野支部第一回總會　五月二日
總裁殿下御台臨出席者約一萬人內遺族廢兵約二千五百人
福島支部第二回總會　五月十九日
總裁殿下御台臨出席者約三千五百人內遺族廢兵七百五十五人
山口支部第一回總會　六月五日
總裁殿下御台臨出席者約五千人內遺族廢兵約千五百人
靜岡支部第一回總會　十月四日
總裁殿下御台臨出席者約四千餘人內遺族廢兵約二千餘人
鹿兒島支部第六回總會　十二月六日
出席者約八百餘人
幹事部總會　福井支部足羽郡幹事部外十五幹事部
委員部總會　韓國大邱委員部外六委員部

○華族會館に於て四月十一日原內相及各支部顧問（各府縣知事）招待會に於て
總裁殿下より左の御諭旨を賜ふ
支部顧問諸氏は地方政務の繁劇中に在りて能く本會の事業を援助せられ各支部今日の隆盛を致せしは喜ぶべきの至なり尙今後の事諸氏の援助に待つもの多々なれば幸に此意を諒して益々其力を添へられんことを望む

○明治三十七八年戰役の際盡力せし廉を以て十月十日明治三十九年四月一日附左の通御沙汰書を賜りたり

正二位勳一等公爵岩倉具定妻　岩倉久子
明治三十七八年戰役ノ際盡力セシニ付
勳四等寶冠章ヲ授ケ賜フ
奥村五百子
（各通）
故正六位中山信安妻　中山幸子
前同文　勳六等寶冠章ヲ授ケ賜フ
從三位勳四等子爵岡部長職妻　岡部坻子
公爵近衛文麿母　近衛貞子
從二位勳一等子爵谷干城妻　谷玖滿子
（各通）
正三位勳二等男爵濱尾新妻　濱尾作子
從二位勳一等子爵清浦奎吾妻　清浦錬子
勳六等仁杉英妻　仁杉歌子
正三位勳二等法學博士山脇玄妻　山脇房子
明治三十七八年戰役ノ際盡力セシニ付
金杯一組ヲ賜フ

愛國婦人會石川支部
愛國婦人會東京支部
愛國婦人會山口支部
愛國婦人會岡山支部
愛國婦人會兵庫支部
愛國婦人會山形支部
愛國婦人會熊本支部
愛國婦人會愛知支部
愛國婦人會京都支部
愛國婦人會長崎支部
愛國婦人會大阪支部
愛國婦人會富山支部
愛國婦人會香川支部
愛國婦人會宮城支部
愛國婦人會神奈川支部
愛國婦人會愛媛支部
愛國婦人會群馬支部
愛國婦人會滋賀支部
明治三十七八年戰役ノ際盡力セシニ付
金杯一箇ヲ賜フ

愛國婦人會青森支部
愛國婦人會大分支部
愛國婦人會北海道支部
愛國婦人會福岡支部
愛國婦人會高知支部
愛國婦人會奈良支部
愛國婦人會三重支部
愛國婦人會福井支部
愛國婦人會巖手支部
愛國婦人會宮崎支部
愛國婦人會廣島支部
愛國婦人會福島支部
愛國婦人會德島支部
愛國婦人會佐賀支部
愛國婦人會千葉支部
愛國婦人會島根支部
愛國婦人會鳥取支部
愛國婦人會茨城支部
愛國婦人會台灣支部
愛國婦人會函館支部
愛國婦人會鹿兒島支部
愛國婦人會和歌山支部
愛國婦人會秋田支部
愛國婦人會山梨支部
愛國婦人會埼玉支部
愛國婦人會長野支部
愛國婦人會沖繩支部
愛國婦人會岐阜支部
愛國婦人會靜岡支部
愛國婦人會新潟支部
愛國婦人會栃木支部
明治三十七八年戰役ノ際盡力セシニ付
銀杯一組ヲ賜フ

愛國婦人會北海道支部札幌幹事部　外十六ヶ幹事部
愛國婦人會東京支部荏原郡幹事部　外二十五ヶ幹事部
愛國婦人會京都支部愛宕郡幹事部　外十八ヶ幹事部
愛國婦人會大坂支部西成郡幹事部　外十三ヶ幹事部
愛國婦人會神奈川支部久良岐郡幹事部　外十一ヶ幹事部
愛國婦人會兵庫支部武庫郡幹事部　外二十六ヶ幹事部
愛國婦人會長崎支部西彼杵郡幹事部　外九ヶ幹事部
愛國婦人會新潟支部北蒲原郡幹事部　外十七ヶ幹事部
愛國婦人會埼玉支部北足立郡幹事部　外八ヶ幹事部
愛國婦人會群馬支部勢多郡幹事部　外十二ヶ幹事部
愛國婦人會千葉支部千葉郡幹事部　外十一ヶ幹事部
愛國婦人會茨城支部東茨城郡幹事部　外十四ヶ幹事部
愛國婦人會栃木支部上都賀郡幹事部　外八ヶ幹事部
愛國婦人會奈良支部添上郡幹事部　外十ヶ幹事部
愛國婦人會三重支部桑名郡幹事部　外十六ヶ幹事部
愛國婦人會愛知支部愛知郡幹事部　外十九ヶ幹事部
愛國婦人會靜岡支部賀茂郡幹事部　外十三ヶ幹事部
愛國婦人會山梨支部東山梨郡幹事部　外九ヶ幹事部
愛國婦人會滋賀支部滋賀郡幹事部　外十二ヶ幹事部
愛國婦人會岐阜支部稻葉郡幹事部　外十八ヶ幹事部
愛國婦人會長野支部南佐久郡幹事部　外十六ヶ幹事部
愛國婦人會宮城支部刈田郡幹事部　外十六ヶ幹事部
愛國婦人會福島支部信夫郡幹事部　外十七ヶ幹事部
愛國婦人會巖手支部巖手郡幹事部　外十三ヶ幹事部
愛國婦人會青森支部東津輕郡幹事部　外九ヶ幹事部
愛國婦人會山形支部南村山郡幹事部　外十二ヶ幹事部
愛國婦人會秋田支部南秋田郡幹事部　外九ヶ幹事部
愛國婦人會福井支部足羽郡幹事部　外十一ヶ幹事部
愛國婦人會石川支部江沼郡幹事部外　八ヶ幹事部
愛國婦人會富山支部上新川郡幹事部　外九ヶ幹事部
愛國婦人會鳥取支部岩美郡幹事部　外六ヶ幹事部
愛國婦人會島根支部八束郡幹事部　外十三ヶ幹事部
愛國婦人會岡山支部御津郡幹事部　外十九ヶ幹事部
愛國婦人會廣島支部安藝郡幹事部　外十八ヶ幹事部
愛國婦人會山口支部大島郡幹事部　外十一ヶ幹事部
愛國婦人會和歌山支部海草郡幹事部　外七ヶ幹事部
愛國婦人會德島支部勝浦郡幹事部　外九ヶ幹事部
愛國婦人會香川支部大川郡幹事部　外八ヶ幹事部
愛國婦人會愛媛支部溫泉郡幹事部　外十二ヶ幹事部
愛國婦人會高知支部土佐郡幹事部　外七ヶ幹事部
愛國婦人會福岡支部宗像郡幹事部　外廿二ヶ幹事部
愛國婦人會大分支部西國東郡幹事部　外十一ヶ幹事部
愛國婦人會佐賀支部佐賀郡幹事部　外八ヶ幹事部
愛國婦人會熊本支部飽託郡幹事部　外十二ヶ幹事部
愛國婦人會宮崎支部南那珂郡幹事部　外七ヶ幹事部
愛國婦人會鹿兒島支部鹿兒島郡幹事部　外十二ヶ幹事部
愛國婦人會沖繩支部那覇區幹事部　外六ヶ幹事部
愛國婦人會シャートル委員部
愛國婦人會布哇委員部
愛國婦人會桑港委員部
愛國婦人會上海委員部
愛國婦人會晚香坡委員部
愛國婦人會天津委員部
愛國婦人會牛莊委員部
愛國婦人會平壤委員部
愛國婦人會木浦委員部
愛國婦人會馬山委員部
愛國婦人會京城委員部
愛國婦人會仁川委員部
愛國婦人會鎭南浦委員部
明治三十七八年戰役ノ際盡力セシニ付
銀杯一箇ヲ賜フ

○本部職員改撰　本年會員總會の決議に依り評議員改撰の結果當撰者左の如し

公爵夫人	岩倉久子	同	一條悅子
同	二條治子	同	德川泰子
同	大山捨松	同	九條惠子
公爵母堂	近衛貞子	公爵夫人	島津田鶴子
公爵母堂	毛利安子	侯爵夫人	池田亨子
同	細川孝子	同	德川久子
同	伊達寧子	同	鍋島榮子
同	野津とめ子	同	黑田淸子
同	佐竹祚子	伯爵夫人	板垣絹子
前伯爵夫人	井伊常子	伯爵夫人	伊東美津子
同	德川知子	同	戶田極子
同	東鄕鐵子	同	小笠原貞子
同	大隈綾子	同	樺山登茂子
同	香川須磨子	同	黑木百子
伯爵母堂	兒玉マツ子	伯爵夫人	阿部篤子
同	佐々木貞子	前伯爵世嗣夫人	佐々木行子
子爵夫人	井上光子	前子爵夫人	岩倉槙子
子爵夫人	井伊增子	同	花房千鶴子
同	長谷川展子	同	西美喜子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

前子爵夫人 丹羽花子
同 本庄幸子
同 岡部坻子
同 川村浩子
同 鍋島輝子
同 山地徽子
前子爵夫人 松平八百子
同 佐竹敏子
同 伊集院繁子
男爵夫人 波多野鶴子
同 參田岩子
同 大藏松子
同 高木富子
同 宇佐川種子
男爵母堂 松村琴子
男爵夫人 有地拾子
同 佐藤靜子
同 三井苞子
同 千家俊子
同 伊澤千世子
鳩山春子
早川里子
新山稚樂子
鹽島文子
尾崎英子
大久保榮子
片山龜子
棚橋絢子
津田梅子
中山幸子
中井かれ子
熊谷よし子
柳谷千代子
安田房子
松崎悅子
古市幸子
江木中子
跡見花蹊
佐藤銀子
澤よし子
菊池成子
三井照子
三井五十子
水野滿喜子
澁谷知和子
弘田增子
森村菊子

子爵夫人 細川國子
同 戸田時子
同 小笠原秀子
同 谷玖滿子
前子爵夫人 鍋島易子
子爵夫人 松平雅子
同 守內瀧子
同 清浦錬子
同 原口せき子
同 濱尾作子
同 尾崎八重子
同 片岡たま子
同 堤常子
同 松平須磨子
男爵夫人 副島良子
同 有馬鶴子
同 坂井春子
同 澁谷綾子
同 岡郁子
岩佐千賀子
原睦子
仁尾繁子
栂光子
大谷かち子
大道隆子
渡邊いれ子
高木鐵子
高橋藤々子
長岡芳子
長井とし子
窪田せい子
山脇房子
山本たほ子
松浦島子
藤井とく子
近藤從子
鄉演子
有島幸子
佐方鎭子
佐々木芳子
三輪田眞佐子
三井壽天子
三井榮子
下田歌子
島田信子
仁杉歌子

評議員中より理事監事を理事中より會長副會長を選擧の結果當選者左の如し

會長 公爵夫人 岩倉久子
副會長 同 一條悅子
理事 同 德川泰子
同 同 大山捨松
同 公爵母堂 近衛貞子
同 公爵夫人 島津田鶴子
同 公爵母堂 毛利安子
同 侯爵夫人 鍋島榮子
同 子爵夫人 岡部坻子
同 同 谷玖滿子
監事 公爵夫人 九條惠子
同 男爵夫人 三井苞子

右改撰後職員の異動左の如し

評議員補欠當選 保利久土
同 武田錦子
同 押川愛子
同 龜井眞洲子
同 加藤喜代子
同 下岡まつ子
同 渡邊源子
同 日下清子
同 青山孝子
同 岡田德子
同 清水米子
同 本鄉喜美子
轉住に付退職 評議員 熊谷よし子
辭退 監事 公爵夫人 九條惠子
監事補欠當選 伯爵夫人 伊東美津子
轉住に付退職 評議員男爵夫人 參田岩子
同 同 男爵夫人 片岡たま子
死亡 同 中山幸子
死亡 同 堤常子

○明治四十一年十二月末日現在會員七十五万八千三百二十八人內五万七百三十六人（特別三千四百五十人　通常四萬七千二百八十六人）は本年の增加に係るものなり外に事故退會及除名したるもの一万千〇六十人なり

○規則設定及改正　本年中總會の決議並に評議員會の決議に依り本會定款其他規則類の設定及改正を爲したるもの左の如し

一定款中一部改正
一會員醵金配當步合の改正
一會員贊助員取扱規則設定
一救護規則設定
一會計規則改正
一功勞者篤志者奬勵內規設定
一有功章會員章拾得者へ報勞金價額の件
一本部規則中一部改正
一支部規則中一部改正
一臺灣支部規則中一部改正
一海外委員部規則中一部改正
一韓國委員本部規則中一部改正
一支部會計檢査內規設定
一支部給與內則設定
一給與規則並賞與內規設定
一支部豫算準則設定
一幼兒救養所規則設定

○本年中有功章贈與數左の如し

一特別徽章　八人
一一等有功章　七十四人
一二等有功章　二百六十七人
一三等有功章　千〇八十二人

○遊說員派遣　本年中遊說員野中彌知子を宮城、栃木、鹿兒島の各支部下に同富樫輿喜子を京都、長野、石川の各支部下に派遣し到る處好成績を收めたり

○本部職員支部出張　會長岩倉久子氏は長野、福島、山口、靜岡の各支部總會に評議員伊藤美津子評議員尾崎八重子の兩氏は群馬支部總會に評議員岩倉梭子氏は京都支部總會に評議員松平須磨子氏は靜岡支部總會に評議員岡郁子氏は石川支部能美郡幹事部總會に評議員藤井とく子氏は福島支部總會に評議員跡見花蹊氏は長野支部總會に評議員千家俊子氏は東京支部西多摩郡幹事部總會に出張せり

○本會の目的たる事業は廢兵遺族を援助救護するにあり而して之を援護するには現金給與と授產法とを以てす就中本部は授產事業を望むなれども此事業たるや極めて難事なり蓋都市の如きは授產場を設けて之に收容し生業に從事せしむるを得れども郡村に至りては個人援護の法に據らざるべからず其他救養法又は物品慰藉等千差萬別の手段あるも是皆支部の擇む所に任じ本部は唯其方法の確否を監視するのみ又支部の狀況に鑑みて現金給與若くは事業の補助をなす

四十一年度に於て本部の支出せし援護金は合計金九萬千五百五拾參圓九厘にして內個人現金に屬するもの金七萬九千九百拾貳圓拾錢〇個人物品及慰藉に屬するもの金千四百五拾四圓六拾錢〇事業補助に屬するもの金壹萬百八拾六圓三拾錢九厘なり

各支部支出の援護金は合計金五萬八千三百八拾七圓六拾八錢三厘にして內個人現金給與に屬するもの金四萬三千六百三拾壹圓四拾八錢五厘〇事業に屬するもの金壹萬千五百三拾七圓八拾五錢八厘なり

右本支部支出の援護金を總計すれば金拾四萬九千九百四拾圓六拾九錢貳厘にして明治三十四年本會設立以後の此種に屬する總支出を計上すれば金五拾貳萬四千九百餘圓とす

授產事業　各支部の裁縫の狀況を揭ぐれば東京は衣服足袋の裁縫大阪は衣服の裁縫三重はドロンウォーク京都は經木眞田石川は麥稈眞田富山は絹手巾秋田は木通蔓細工岡山は幼兒保育（以上多くは試業中）其他神奈川島根德島の如きは生產事業の計畫準備中にて未た着手には至らず就中大阪の如きは規模立ちて女工亦熟せり又香川、福岡の如きは十年計畫をなし注意周到なり又個人援護の方法に就ては山口香川の如きは能く屆き居れり尙其他の支部に於ても成績漸次良好に赴むけり

臺灣支部に於ては土匪生蕃の討伐に從事せし警察官吏及隘勇の戰死若くは負傷せる者に對し遺族又は負傷者を援護するの法を設け四十一年に於て支出せし金七千七拾四圓餘あり尙は東京外三支部は軍人援護會殘金利子の分配を受けたり其金額壹萬三千貳百拾八圓三拾四錢なり

○二月七日　本會主唱者故正七位奥村五百子氏一周忌法要を淺草本願寺に於て執行せり

○二月十日　韓國鎭南浦婦人慈善會を同會の申込に依り本會鎭南浦委員部へ合併の件承認せり

○四月二十二日　總裁殿下御邸に於て茶話會の御催あり本部職員並に上京中の各支部長は御招待を受け參殿せし職員六十名本會發展上に付御諭旨を賜はりたり

○五月六日、七日　の兩日靖國神社臨時大祭に付參拜遺族接待所を本會本部樓上に設け來集の遺族五百十八人へ茶菓を饗し紀念として扇子並に總裁殿下御染筆復寫を贈與せり

○四月廿七日　各支部主事諮問會を本部に於て開く本會顧問二條公爵岡部、清浦兩子爵臨場せられたり主なる議題左の如し

一醵集金配當步合の件
一支部規則中一部改正の件

○十月十二日　韓國駐剳軍隊並憲兵警察官にして討伐に從事せし者へ慰問の目的を以て慰問袋を募集したるに頗る好況にて慰問袋參萬四千五百五十七個外に繪葉書調製料金二千三百八十九圓十四錢五厘を得たるを以て贈呈方を韓國委員本部へ委任せり

明治四十一年度愛國婦人會會計決算報告

○基本金之部

一金五拾壹萬百七拾五圓九拾四錢六厘　四十年度ヨリ繰越高
一金千參百八拾圓九拾壹錢　寄附金
一金百參拾九圓四拾七錢　贊助金
一金百五圓貳拾六錢　四十年分山梨支部規準外會費納金
一金拾萬圓　四十一年分會費納金ノ內組入
一金貳萬千六百拾圓六錢壹厘　收支勘定殘金組入
合計金六拾參萬參千四百拾壹圓六拾四錢七厘　四十一年度へ繰越

○用途指定寄附之部

收入之部

一金拾貳圓　總會費へ寄附

支出之部

一金拾貳圓　第七回總會費に支出

○收支勘定之部

收入之部

一金拾八萬五千參百五拾六圓拾八錢四厘　四十年度ヨリ繰越高
一金貳拾參萬參千七百八拾七圓八拾錢五厘　會費收納高
此內譯
金貳拾參萬九百參拾六圓貳拾五錢五厘　各支部納金別紙ノ通
金貳千八百五拾壹圓五拾五錢　海外委員部及直納
一金四萬九百貳拾貳圓四拾六錢壹厘　雜收入
此內譯
金參萬四千五百貳拾四圓九拾錢　預金利子
金五千八百七拾四圓八拾參錢　債券利子株券配當共
金百拾五圓五拾四錢五厘　徽章再渡代
金四百七圓拾八錢六厘　雜入
合計金四拾六萬六拾六圓四拾五錢　總收入高

支出之部

一金七千六百圓九拾七錢壹厘　事務費
此內譯
金五千九拾七圓六拾四錢　諸給
金五百參拾壹圓五拾八錢　借地料
金百貳拾圓　廣告料
金五拾五圓七拾貳錢　辨當料
金百拾八圓八拾六錢五厘　筆紙墨費
金參百七拾五圓五拾錢　郵便電信費
金八拾五圓四拾五錢五厘　器具費
金百參拾八圓五拾參錢五厘　車代
金八百四拾壹圓五拾九錢九厘　營繕費
金貳百參拾六圓七錢七厘　諸雜費
一金貳萬四千五百參圓四拾九錢參厘　事業費
此內譯
金千六百壹圓五拾七錢五厘　印刷費
金六千貳百八拾九圓參拾九錢八厘　徽章製作費
金九千五百參拾圓貳拾七錢五厘　擴張諸費
金六千九拾七圓貳拾八錢五厘　總會費
金九百貳拾參圓六拾錢　運送費
金六拾壹圓參拾六錢　靖國神社大祭接待費
一金九萬千八百參拾六圓九厘　救護金
此內譯
金六萬八千百拾壹圓　定期救護金
金壹萬千七百八拾八圓九厘　臨時救護金
金千九百參拾七圓　特別救護金
金壹萬圓　授產事業補助金
合計金拾貳萬參千九百四拾圓四拾七錢參厘　總支出高
外ニ金拾萬圓　四十一年會費收入ノ內基本金へ組入
金貳萬千六百拾圓六錢壹厘　剩餘金ノ內基本金へ組入
總計金貳拾四萬五千五百五拾圓五拾參錢四厘
差引金貳拾壹萬四千五百拾五圓九拾壹錢六厘　四十二年度へ繰越高
此內譯
金貳萬八百五圓六拾五錢　所有家屋、什器貸與金等固定資產
金拾七萬四千七百拾圓貳拾六錢六厘　四十一年度收入總高
金壹萬九千圓　四十年度收入殘金ノ內幼兒救養所新設費繰越

○四十一年度末資產負債表

負債之部

一金六拾參萬參千四百拾壹圓六拾四錢七厘　基本金
一金貳拾壹萬四千五百拾五圓九拾壹錢六厘　本年度剩餘金
合計金八拾四萬七千九百貳拾七圓五拾六錢參厘

資產之部

一金參拾八萬八千六百圓　銀行定期預金
此內譯
金九萬八千圓　森村銀行
金六萬圓　十五銀行
金參萬六千圓　日本興業銀行
金七萬圓　第三銀行
金貳萬圓　第一銀行
金五萬六千六百圓　浪速銀行
金四萬八千圓　加島銀行
一金拾壹萬五千百五拾貳圓五拾七錢　銀行當座預金
此內譯
金參萬貳千拾貳圓五拾七錢　森村銀行
金六千貳百六拾壹圓參拾五錢　十五銀行
金壹萬五千七百參圓貳拾六錢　日本興業銀行
金參萬百五拾四圓八拾八錢　第三銀行
金六千貳百四拾八圓六拾四錢　第一銀行
金貳萬四千七百七拾壹圓八拾七錢　加島銀行
一金千百七拾五圓七拾錢　公債證書
一金參拾萬參千九百九拾貳圓五拾錢　國有鐵道株券
此內譯
金拾參萬六千六百四圓七拾錢　九州鐵道株千八百七拾株
金拾六萬八百九拾貳圓八拾錢　關西鐵道株參千四百六拾株
金六千四百九拾五圓　參宮鐵道株百株
一金拾圓　貯蓄債券
一金七千五百參拾九圓七拾四錢　所有家屋
一金七百拾五圓九拾壹錢　什器
一金壹萬貳千五百五拾圓　貸與金
一金壹萬七千九百圓　四十二年度經費繰替金
一金貳百九拾壹圓拾四錢參厘　現在金
合計金八拾四萬七千九百貳拾七圓五拾六錢參厘

右之通候也

明治四十一年三月　日

愛國婦人會
會長公爵夫人　岩倉久子
副會長同　一條悅子
理事　連名

右監查を遂げ相違なきことを證す

監事伯爵夫人　伊東美津子
同　男爵夫人　三井苞子

明治四十一年度會費收納內譯

支部名	會費步合（円）
臺灣	[illegible]
北海道	[illegible]
東京	[illegible]
京都	[illegible]
大阪	[illegible]
神奈川	[illegible]
兵庫	[illegible]
長崎	[illegible]
新潟	[illegible]
埼玉	[illegible]
群馬	[illegible]
千葉	[illegible]
茨城	[illegible]
栃木	[illegible]
奈良	[illegible]
三重	[illegible]
愛知	[illegible]
靜岡	[illegible]
山梨	[illegible]
滋賀	[illegible]
岐阜	[illegible]
長野	[illegible]
宮城	[illegible]
福島	[illegible]
岩手	[illegible]
青森	[illegible]
山形	[illegible]
秋田	[illegible]
福井	[illegible]
石川	[illegible]
富山	[illegible]
鳥取	[illegible]
島根	[illegible]
岡山	[illegible]
廣島	[illegible]
山口	[illegible]
和歌山	[illegible]
德島	[illegible]
香川	[illegible]
愛媛	[illegible]
高知	[illegible]
福岡	[illegible]
大分	[illegible]
佐賀	[illegible]
熊本	[illegible]
宮崎	[illegible]
鹿兒島	[illegible]
沖繩	[illegible]
函館	[illegible]
計金	[illegible]

明治四十二年四月五日發行（每月五日廿日二回）
（定價金三錢五厘 一ヶ月七錢郵税不要）　廣告料一行金六拾錢
發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　永持德一
發行所　東京麴町區飯田町　愛國婦人發行所
發賣所　同京橋區南鍋町　株式會社隆文館
印刷所　東京市牛込區榎町　日清印刷株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第百七十四號附錄

明治四十二年四月五日（毎月二回五日廿日）發行　明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

（一）は靜岡支部磐田郡幹事部長佩二等有功章桑原美乃子（二）は同上周智郡幹事部長佩二等有功章大澤福子（三）は茨城縣東茨城郡幹事部幹事大森藤子（四）群馬支部幹事佩三等有功章牛田たか（五）は同上碓氷郡幹事部幹事石井でん（六）は神奈川支部鎌倉郡幹事部幹事島村のぶ

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人永持德一　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所　印刷所　日清印刷株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN